

令和元年度

神奈川県立体育センター研究報告書

「学びに向かう力、人間性等」を  
涵養する体育の授業づくりの提案  
—高等学校における「協力」「参画」「共生」を  
指導する陸上競技の授業実践—  
(2年継続研究の2年目)

神奈川県立体育センター  
事業部指導研究課研修指導班

## 第1章 研究を進めるにあたって

1 研究主題	1
2 主題設定の理由	1
3 研究の目的	2
4 研究方法	2

## 第2章 理論の研究

1 新学習指導要領において育成を目指す資質・能力について	3
2 現在の評価の観点と新学習指導要領における評価の観点について	3
3 体育における「学びに向かう力、人間性等」の指導と評価について	3
4 現行の学習指導要領の態度における指導の成果と課題について	4
5 「協力」と「参画」の指導について	8
6 「共生」の視点について	9
7 協同学習について	10
8 「協力」「参画」「共生」における具体的な指導内容の設定	10

## 第3章 検証授業

1 検証授業の基本的な考え方	12
2 授業実践の方法	12
3 検証の視点	13
4 学習指導計画（研究協力校における現行の学習指導要領によるもの）	13
5 学習指導の工夫	16
6 授業の実際	23
7 検証授業の結果と考察	38

## 第4章 検証授業のまとめ

1 検証授業の成果	40
2 学習指導の工夫	42

## 第5章 授業の提案

1 学習指導計画	44
2 授業案	49
3 授業づくりのポイント	63
4 研究のまとめ	64

# 第1章 研究を進めるにあたって

## 1 研究主題

「学びに向かう力、人間性等」を涵養する体育の授業づくりの提案  
—高等学校における「協力」「参画」「共生」を指導する陸上競技の授業実践—

研修指導班 福澤次郎 西塚祐一 竹村健二 田所克哉 堀内利紀  
熊崎貴之 福地真一 伊藤秀太郎 大石進  
研究アドバイザー 日本体育大学教授 岡出美則

## 2 主題設定の理由

平成28年の中央教育審議会答申（以降、中教審答申）において、育成すべき資質・能力の三つの柱が「生きて働く『知識・技能』の習得」、「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」に整理された。<sup>1)</sup>それに伴い、今回の学習指導要領の改訂では、全ての教科等の目標や内容についても「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。

評価の観点においては、現在、学力の3要素を踏まえて、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」の4つの観点が設定されている。新学習指導要領においては、育成すべき資質・能力の育成を目指し、小・中・高等学校の各教科を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理することとなった。このことは、「資質能力の育成を目指して『目標に準拠した評価』を実質化するための取組でもある」<sup>2)</sup>とされている。

体育の運動領域においては、現行の学習指導要領で「態度」の内容が記されていたこともあり、新しい学習指導要領においても、「学びに向かう力、人間性等」では、他教科とは異なり目標だけでなく指導内容が示されている。このことは、体育の「学びに向かう力・人間性等」の涵養において他教科とは異なる期待がかかっていると考えられることができる。また、評価については、現行の「態度」における評価と同様に内容に対応した学習評価がされることとなっている。

しかしながら、学習評価について指摘されている課題として、「現行の『関心・意欲・態度』の観点について、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない」<sup>3)</sup>との記載がある。このことは、「態度」の指導と評価において、学校現場で理解が進んでいないことを表していると考えられ、新学習指導要領の実施に向けて、取り組んでいかなければならない課題である。

「学びに向かう力、人間性等」の指導と評価を考えていく上で、従前の「態度」の課題を考察することとした。平成28年の中教審答申において、体育、保健体育における現行学習指導要領の成果と課題として、「公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いている」<sup>4)</sup>と記載されている。また、「平成25年度学習指導要領実施状況調査」における、「態度」に係る小学校の結果は、課題は見られなかったと報告している<sup>5)</sup>。

一方、中学校の結果については、生徒への質問（取り組んでいるか、役立っているか）の肯定的な回答が、「協力」「参画」は、「公正」「責任」「安全」に比べて低く、また、教師への質問（指導できているか）の肯定的な回答と比べると、割合に大きな差（約20ポイント生徒が低い）が見られる<sup>6)</sup>。このことから「協力」と「参画」には、指導における課題があると考えられる。また、新学習指導要領において新たに指導内容に加えられた共生についても、具体の指導法と評価についての考察は喫緊の課題といえる。

令和2年に、公表された高等学校の結果では、生徒への質問の肯定的な回答が、「責任」と「参画」で低いことがわかった。<sup>7)</sup>また、教師への質問（指導できているか）の肯定的な回答と比べると、「協力」「責任」「参画」において約20ポイントの差があることがわかった。さらに中学校の調査に

比べ、多くの項目で、生徒と教師の肯定的な回答の差が大きくなっていることがわかった。このことから、小学校には見られなかった「態度」の課題が、中学校から高等学校に校種が上がるにつれて、大きくなっていることがわかる。

昨今、子どもたちのコミュニケーション力の低下が問題となっており、体育の授業においても、グループ単位での話し合いが生産的なものにならないことが多々あると言われている。これは、話し合いに必要なコミュニケーションスキルや社会的スキルの習得が十分でないことが原因の一つとして考えられ、これらのスキルを指導することが、体育の授業においても必要と考えられる。そして、その効果的な学習指導モデルとして、小集団を活用し、生徒たちが一緒に取り組むことによって、自分の学習と互いの学習を最大限に高めようとする教育方法の協同学習<sup>8)</sup>が挙げられる。

現在、当センターの研修を振り返り、技能の習得や思考・判断の育成を目指した授業の研究や研修に比べ、態度の涵養を目指した授業の研究や研修の数は少ないように感じる。また、学校現場において、新学習指導要領の「学びに向かう力、人間性等」の指導と評価に対する不安の声も挙げられている。

高等学校における新学習指導要領の実施が迫る中、体育における「学びに向かう力、人間性等」を涵養する具体的な指導や評価の実践が求められており、特に現行の体育における「態度」の指導と評価の課題である「協力」「参画」、新学習指導要領で新たに加わった「共生」の指導の実践が求められている。以上のことから、本主題を設定した

### 3 研究の目的

高等学校において、「協力」「参画」「共生」を指導する体育の授業実践を行い、その成果と課題から「学びに向かう力、人間性等」を涵養する授業づくりを提案する。

## 4 研究方法

### (1) 研究期間

平成30年4月～令和2年3月

### (2) 研究手順

ア 平成30年度

- (ア) 文献研究
- (イ) 指導計画及び検証方法の検討
- (ウ) 授業実践者（実践校）の決定

イ 令和元年度

- (ア) 授業実践者（実践校）との指導計画及び検証方法の検討
- (イ) 授業実践
- (ウ) 検証
- (エ) 提案内容の検討

## 第2章 理論の研究

### 1 新学習指導要領において育成を目指す資質・能力について

平成28年中教審答申において、「生きる力」をより具体化し、教育課程を全体を通して育成を目指す資質・能力をア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識・技能』の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に活かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養）」の三つの柱に整理する<sup>1)</sup>こととなった。また、それに伴い今回の学習指導要領改訂では、全ての教科等の目標や内容を『知識及び技能』、『思考力、判断力、表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』の三つの柱で再整理されることとなった。

### 2 現在の評価の観点と新学習指導要領における評価の観点について

平成28年中教審答申において「現在、各教科について、学習状況を分析的に捉える『観点別学習状況の評価』と総括的に捉える『評定』とを学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施することが明確にされている。」<sup>2)</sup>とある。評価の観点については、学校教育法30条第2項が定める学校教育において重視すべき三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）を踏まえて、現在は図1のように4つの観点が設定されている。

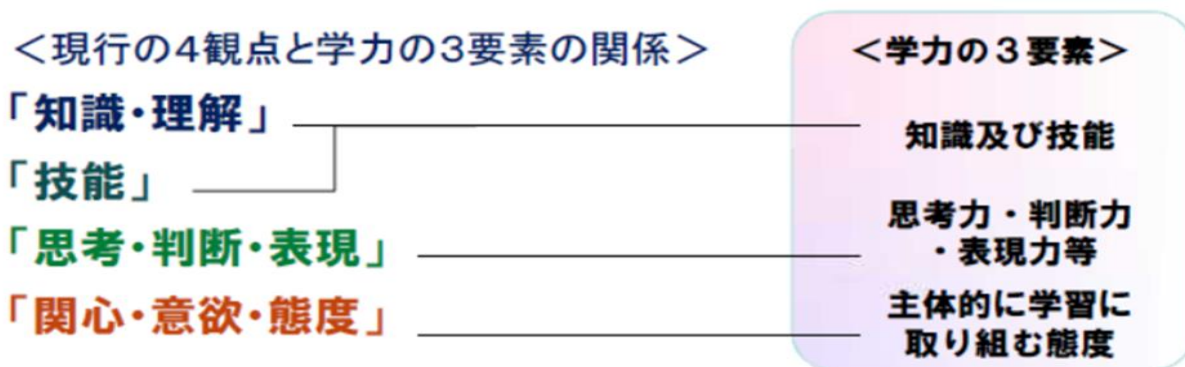


図1 現行の4観点と学力の3要素の関係

先に述べた、新学習指導要領の目標と内容の三つの柱に基づいた整理とともに、観点別評価においては、その資質・能力の育成を目指して「目標に準拠した評価」を実質化するために、「小・中・高等学校の各教科を通じて、『知識・技能』『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』の3観点到整理する」<sup>2)</sup>こととなった。

### 3 体育における「学びに向かう力、人間性等」の指導と評価について

現行の学習指導要領において、体育科の運動領域では、「態度」の内容が記されていたこともあり、新学習指導要領の「学びに向かう力・人間性等」においても、他教科とは異なり、指導内容が表1(p.4)のように示されている。このことから、体育においては、「主体的に学習に取り組む態度」の評価についても、内容に対応した学習評価がされることとなっている。しかしながら、平成31年1月の「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」において、学習評価について指摘されている課題として、「現行の『関心・意欲・態度』の観点について、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない」<sup>3)</sup>との記載がある。このことは、「態度」の指導と評価において、学校現場で理解が進んでいないことを表していると考えられる。

表1 各段階で示した「学びに向かう力、人間性等」の主な表記<sup>9)</sup>

	中学校1年・2年	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
ア共通事項	積極的に取り組もうとする	自主的に取り組もうとする	主体的に取り組もうとする
イ公正	勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする	勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする	
	フェアなプレイを守ろうとする	フェアなプレイを大切にしようとする	
	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする	
ウ協力・責任	よい演技を認めようとする	よい演技を讃えようとする	
	仲間の学習を援助しようとする	互いに助け合い教え合おうとする	互いに助け合い高め合おうとする
	分担した役割を果たそうとする	自己の責任を果たそうとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする
エ参画・共生	話し合いに参加しようとする	話し合いに貢献しようとする	合意形成に貢献しようとする
	一人一人の違いを認めようとする	一人一人の違いを大切にしようとする	
オ健康・安全	健康・安全に気を配る	健康・安全を確保する	

#### 4 現行の学習指導要領の態度における指導の成果と課題について

平成28年中教審答申には、「公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いていること」<sup>4)</sup>との記載があり、体育、保健体育において態度の内容が身に付いていることが成果として挙げられている。

「態度」の指導の成果と課題に係るデータについては、「学習指導要領実施状況調査」として、国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載されており、「平成24・25年度小学校調査」（以降、小学校調査）と「平成25年度中学校調査」（以降、中学校調査）の結果が公表されている。また、令和2年に、「平成27年度高等学校調査」（以降、高校調査）が公表された。

この調査は、「ペーパーテスト調査」「実技調査」「質問紙調査」からなり、各調査結果の内容を確認することとした。（調査結果を教科別にまとめた、「学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点」を含む）

##### （1）小学校における「態度」の指導の成果と課題について

確認に際しては、「教科等別分析と改善点『小学校体育（運動領域）』」の記載内容のうち、「④児童質問紙調査と教師質問紙調査との関係」の記載を確認することとした。そして、生徒の質問紙調査の対象が小学校6年生である<sup>10)</sup>ことから、質問の内容を、次に示す現行の小学校学習指導要領における小学校第5学年及び第6学年の態度についての目標をもとに、「協力」「公正」「健康・安全」「自己の最善を尽くして運動をする態度（以下、最善を尽くす態度とする。）」に焦点を当てることとした。

現行小学校学習指導要領体育編における小学校第5学年及び第6学年の態度についての目標<sup>11)</sup>

（2）協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

次は、「④児童質問紙調査と教師質問紙調査との関係」<sup>12)</sup>として記載されている内容（一部、筆者が修正）である。

#### 「公正」についての質問

教師質問紙調査の「体育の授業で、練習や試合などの場面でルールやマナーを守って取り組むよう指導していますか。」という質問に対して、肯定的な回答<sup>\*1</sup>の割合は100.0%である。

児童質問紙調査「体育の学習で、ゲームなどの時、ルールや約束を守っていますか。」という質問に対して、肯定的な回答の割合は96.6%である。

※1 4つの選択肢のうち「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答2つ（以下同様）

#### 「健康・安全」についての質問

教師質問紙調査の「体育の授業で、児童が自分や仲間の安全に気を配り取り組めるよう安全上の留意点を指導していますか。」という質問に対して、肯定的な回答の割合は99.1%である。

児童質問紙調査の「体育の学習で、自分や仲間の安全に気を付けて取り組んでいますか。」という質問に対して、肯定的な回答の割合は93.8%である。

#### 「最善を尽くす態度」についての質問

教師質問紙調査の「体育の授業では、競争したり仲間と協力したりする経験を通して、自己の最善を尽くして運動をする態度が身につく場面を設定していますか。」という質問に対して、肯定的な回答の割合は96.6%である。

児童質問紙調査の「体育の学習は、自分にできるせいっぱいの力を出して運動しようとする態度を身につけることに役立つと思いますか。」という質問に対して、肯定的な回答の割合は90.8%である。

#### 「協力」についての質問

教師質問紙調査の「体育の授業では、仲間と協力する場面で教え合ったり助け合ったりする場面を設定していますか。」という質問に対して、肯定的な回答の割合は97.0%である。

児童質問紙調査の「体育の学習は、友達と仲良くしたり、協力したりすることに役立つと思いますか。」という質問に対して、肯定的な回答の割合は90.1%である。

これらのことから、教師、児童ともに、すべての質問において、9割以上の肯定的な回答となっている。また、「平成24・25年度小学校学習指導要領実施状況調査 結果のポイント」において、友達の間を意識し、アドバイスをする態度、審判としての役割に関する態度、安全に気を付けてゲームをしようとする態度、友達と助け合って練習や交流をしようとする態度、安全に気を配って活動しようとする態度については、相当数の児童ができていると考えられる<sup>5)</sup>。と報告している。そして、課題について「特記事項なし」と記載されている<sup>5)</sup>。

以上のことから、小学校における、「態度」の指導においては、課題と考えられることが見当たらない。

## (2) 中学校における「態度」の指導の成果と課題について

「教科等別分析と改善点（中学校保健体育(体育分野)）」における、「調査結果の概要」の中で、生徒の学習状況について、「公正」、「責任」、「安全」の態度については、9割以上の生徒が肯定的な回答をしている旨報告している<sup>13)</sup>。また、「生徒の学習状況等」と「生徒質問紙調査と教師質問紙調査の関係」の中で、次のような記載がみられた。

＜生徒の学習状況等＞<sup>6)</sup>

「体育の学習では、自分自身やチームの課題を見付け、その課題を解決することに積極的に取り組もうとしていますか。」(74.8%)、「体育の学習では、仲間の記録を計るなど学習を補助したり、技術の行い方などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようとしていますか。」(74.7%)、「体育の学習では、グループでの話し合いの必要性が生じた場合、チームなどの課題の解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとしていますか。」(68.9%)といった、「協力」、「参画」の態度についての質問に対して、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」という肯定的な回答の割合は「公正」、「責任」、「安全」に比べて低い。

＜生徒質問紙調査と教師質問紙調査の関係＞<sup>6)</sup>

態度、知識、思考・判断に関する11項目の指導内容のうち、教師質問紙調査と生徒質問紙調査の肯定的な回答の割合に大きな差が見られた項目は、「仲間の記録を援助しようとする」（教師質問紙調査：95.9%、生徒質問紙調査：74.7%）と「グループでの話し合いの必要性が生じた場合、チームなどの課題の解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとする」（教師質問紙調査：88.6%、生徒質問紙調査：68.9%）であり、約20ポイントの差が見られた。

これらの記載から、「教師質問紙調査結果」と「生徒質問紙調査結果」を参照し、「公正」「責任」「安全」「協力」「参画」の質問に対する肯定的な回答の割合を教師と生徒で比較したグラフが図2である。「公正」(2.3ポイント)「責任」(4.7ポイント)「安全」(7.8ポイント)に比べて「協力」(21.2ポイント)「参画」(19.7ポイント)に差があることがわかった。

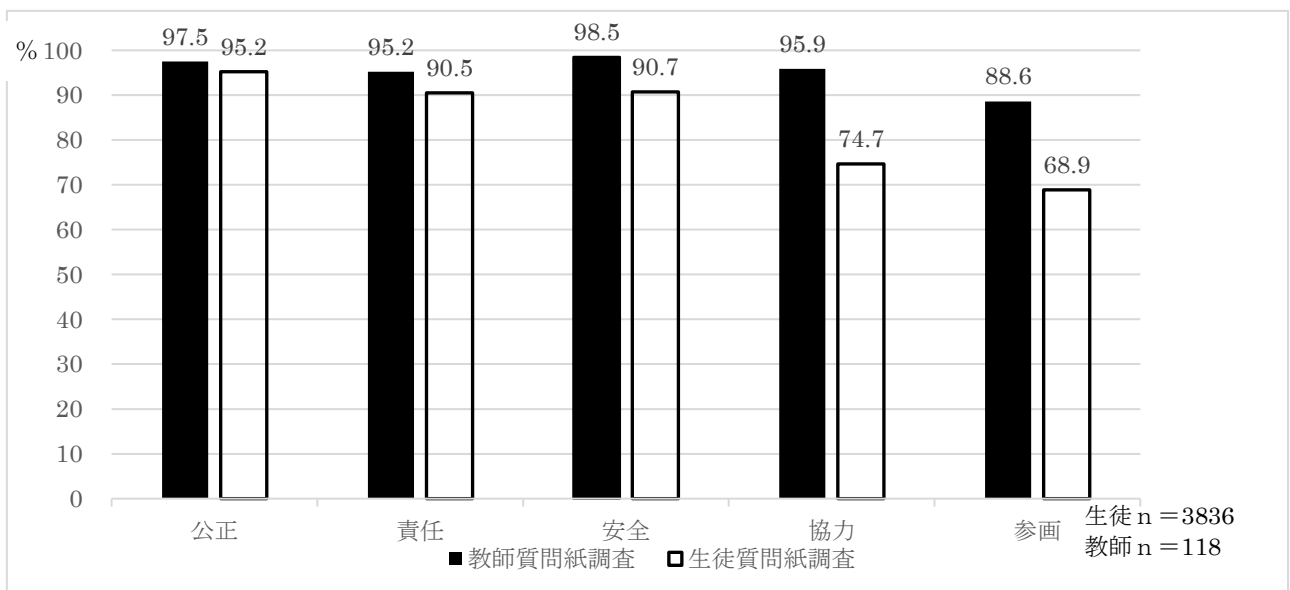


図2 教師質問紙調査と生徒質問紙調査における肯定的な回答の割合<sup>14) 15)</sup>



また、「今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点」<sup>16)</sup>の中に、次のような記載がみられた。

＜今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点＞<sup>16)</sup>

「態度」は質問紙調査における「仲間の学習を援助する（協力）」と「話し合いに参加しようとする（参画）」の教師の指導と生徒の学習状況の回答に差が見られたことから、引き続き、態度に関する意義などの知識を確実に理解できるように指導し、規範的な態度の育成と並行して自主的な活動の機会を次第に広げるなど、協力や参画する意欲を促していくことも大切である。

以上のことから、中学校調査の結果を分析すると、中学校における「態度」の指導の課題は、「協力」と「参画」であることが分かった。

### （3）高等学校における「態度」の指導と課題について

令和2年に公表された、平成27年度「学習指導要領実施状況調査 教科・科目等別分析と改善点（高等学校 保健体育科 体育）」において次のような記載が見られた。

＜生徒の学習状況等＞<sup>7) 17)</sup>

「『体育』の学習で、経験や技能の程度等の違いがあることを認めた上で仲間の出来映えのよさを認めて伝えようとしていますか。」、「『体育』の学習で、仲間の技能の程度にかかわらず課題を共有して互いに助け合ったり教え合ったりしようとしていますか。」という「公正」、「協力」についての質問に対して、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」と肯定的な回答をしている生徒の割合は8割以上である。

「『体育』の学習で、仲間やチームに対して、役割を積極的に引き受けようとしていますか。」(75.8%)、「『体育』の学習で、グループの意思決定をする場合、話し合いを通して意見をまとめることに貢献しようとしていますか。」(70.8%)という『責任』、『参画』についての指導内容に対して、「そうしている」、「どちらかといえばそうしている」と肯定的な回答をしている生徒の割合は他に比べて低い。

また、分析の中では指摘をされていないが、中学校の調査と同様に「教師質問紙調査結果」と「生徒質問紙調査結果」を比較すると、高等学校では、「公正」(7.6ポイント) 安全(14.7ポイント)「協力」(18.6ポイント)、「責任」(19.8ポイント)、「参画」(19.5ポイント)であることが分かった(図3 (p. 8))。中学校では、教師と生徒の回答差が10ポイント以上ある項目は「協力」と「参画」の2つであったが、高等学校では、公正を除く4つの項目で10ポイント以上の差があった。また、中学校で約20ポイントの差は「協力」と「参画」の2つの項目であったが、高等学校では「協力」「責任」「参画」の3つの項目で、約20ポイントの差がみられた。図3は「教師質問紙調査結果」と「生徒質問紙調査結果」をまとめたものである。

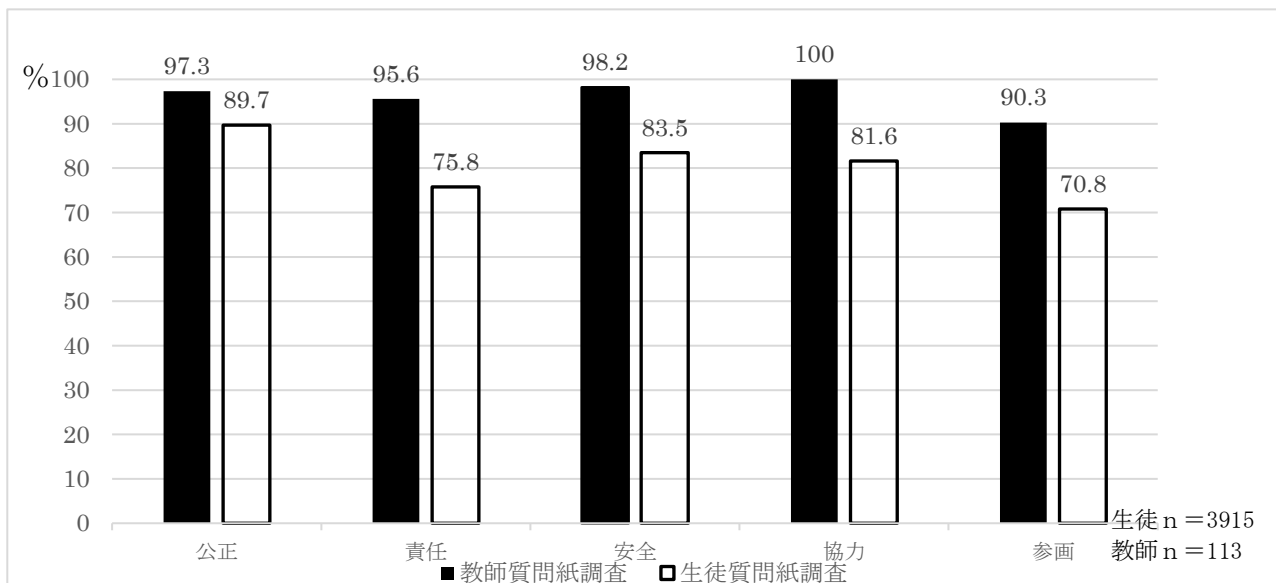


図3 教師質問紙調査と生徒質問紙調査における肯定的な回答の割合<sup>18) 19)</sup>

以上のことから、高等学校における「態度」の課題として、「生徒質問紙調査結果」から「責任」と「参画」の項目があげられ、それに加えて「教師質問紙調査」と「生徒質問紙調査」との肯定的な回答の割合の差から「協力」も課題の1つとして考えられる。

#### (4) まとめ

現行の学習指導要領の「態度」における指導の課題と成果について確認をした。小学校においては、「態度」の指導の全般にわたって成果が確認できた。中学校においては、「公正」「責任」「安全」が成果として、「協力」「参画」が課題として確認できた。高等学校においては、「責任」「協力」「参画」に課題があることが確認できた。

このことは、昨年度の研究において、小・中・高と校種が進むにつれて、態度の課題が大きくなると予想していたとおりの結果になったと言える。

本研究は、「態度」の課題の大きい高等学校において中学校と高等学校の共通の課題である「協力」「参画」に加え、新たな指導事項の「共生」の指導を実践し、「学びに向かう力、人間性等」を涵養する授業づくりを提案するものである。

### 5 「協力」と「参画」の指導について

#### (1) 体育における「学びに向かう力・人間性等」の目標と「協力」、「参画」の目標<sup>20)</sup>

新学習指導要領の体育における「学びに向かう力・人間性等」の目標は「運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。」と示されている。同解説において、各運動に関する領域の学習を通して生徒に身に付けさせたい情意面の目標として、「協力に関しては、仲間との体力などの違いに配慮したり、仲間と助け合ったり教え合ったりしたりするなどの仲間と主体的にかかわり合おうとする意思をもち、協力しようとする意欲を高めることである。」「参画に関しては、グループの課題などの話し合いなどで、自らの意思を伝えたり、仲間の意見を聞き入れたりすることを通して、仲間の感情に配慮して合意形成を図ろうとするなどの意思をもち、チームやグループの意思決定などに参画しようとする意欲を高めることである。」と示されている。

(2) 各運動領域における「学びに向かう力、人間性等」についての指導内容の重点化

「学びに向かう力人間性等」については、各領域において愛好的態度及び健康・安全は共通の事項とし、公正（伝統的な行動の仕方）、協力、責任、参画、共生の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示している。また、各領域で効果的に育むことができる内容と「例示」が示されている。表2では、各領域で、例示まで示されている項目を○で示し、「など」の内容に含まる形で内容に示されている項目を▲で示した。空欄は、内容、例示ともに記載がない項目である。

表2 「学びに向かう力、人間性等」における指導内容の重点化<sup>21)</sup>

	体づくり 運動	器械 運動	陸上 競技	水泳	球技	武道	ダンス
愛好的 態度	○	○	○	○	○	○	○
公正 伝統的			○	○	○	○	
協力	○	○	▲	▲	○	▲	○
責任	▲	▲	○	○	▲	○	▲
参画	○				○		○
共生	○	○	○	○	○	○	○
健康 安全	○	○	○	○	○	○	○

(3) 陸上競技における「協力」、「参画」について<sup>22)</sup>

陸上競技における、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容は「陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。」と示され、「協力」については「など」に含まれ、「互いに助け合い教え合おうとすることがある。これは練習の際に、互いに補助し合ったり、運動観察を通して仲間の課題を指摘し合ったり、課題解決のアイデアを伝え合ったりするなどの活動に自ら取り組もうとすることを示している」と記載されている。新学習指導要領では、陸上競技の領域において、「参画」の内容と例示は示されていない。しかしながら、協同学習モデルを適用し、グループで達成すべき目標を決めることを求めたことで、「参画」に対応する行動を位置づけた。

6 「共生」の視点について

(1) 新学習指導要領における「共生」の視点について

新学習指導要領における保健体育科改訂の要点において、「運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して指導内容の充実を図ること。」<sup>23)</sup>と示された。

(2) 「共生」の指導内容

全ての運動領域において、「共生」の内容は示されている。例示においては、「一人一人の違いに応じた～を大切にしようとする。」と示されており、「～」については、領域ごとに異なる。陸上競技においては、「一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする。」<sup>22)</sup>と記載されている。

## 7 協同学習について

協同学習について、涌井らは、Johnson、Johnson、&Holubec(1993)の定義を活用し、「協同学習とは、小集団（small group）を活用した教育方法であり、そこでは生徒達が一緒に取り組むことによって、自分の学習と互いの学習を最大限に高めようとするものである。」と述べ、「その集団内の互恵的な相互依存関係を基に、協同的な学習活動を生起させる技法が協同学習である。」<sup>8)</sup>とも述べている。

また、涌井らは、Johnson、Johnson、Holubec、&Roy(1984)による文献により、協同学習の成果について、「学習到達度の上昇のほか、グループ内の人間関係の改善や自尊心の改善、利他的な行動や援助行動の増加など」<sup>8)</sup>を挙げており、中学校調査、高等学校調査で課題が見られた「協力」「参画」や新たな指導事項の「共生」等の学習に有効であると考えられる。そして、体育授業への協同学習の適用を研究している栗田は、「構成要素とストラクチャーを用いて授業作りを考えていくことが現状で最も推奨されているやり方である。」と述べており、構成要素を**表3**により説明している<sup>24)</sup>。そこで本研究では、協同学習の5つの構成要素を**表4**のように取り入れることとした。学習活動については、学習活動の工夫にて示すこととする。

**表3 協同学習の5つの構成要素 (Dyson and Casey、2012;Dyson and Rubin、2003;ジョンソンほか、2010 ; これらの記述をもとに栗田が修正)<sup>24)</sup>**

1	協同的(互恵的)な相互依存性が設定されていること
2	グループ目標の達成に対する個人の責任が明確であること
3	課題に関連した対面での相互作用を営む機会が確保されていること
4	個人間、小集団内に必要とされる社会的技能の指導と活用の奨励があること
5	グループ活動に関する振り返り(改善手続き)の時間が確保されていること

**表4 本研究で取り入れた具体的な内容**

5つの構成要素		本研究の授業で取り入れた内容	指導内容
1	協同的(互恵的)な相互依存性	グループの目標達成を目指した活動	参画
2	グループ目標の達成に対する個人の責任	役割分担	参画
3	相互作用を営む機会	アドバイスをし合う活動	協力
4	社会的技能の指導と活用の奨励	アドバイスの仕方	協力 共生
5	振り返り(改善手続き)の時間	毎授業の振り返りと学習ノート	

## 8 「協力」「参画」「共生」における具体的な指導内容の設定

本研究では、「協力」「参画」「共生」の生徒の学習状況を実現するための具体的な指導内容を新学習指導要領の内容、例示から作成し、設定した。**表5** (p. 5)はそれぞれの指導事項における、評価規準、具体的な指導内容とそれに対応した学習活動をまとめたものである。

### (1) 「協力」における具体的な指導内容と対応した学習活動

「協力」においては、新学習指導要領解説の陸上競技における内容の記載から評価規準を「仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い、高め合おうとしている」に設定した。

具体的な指導内容については、「相手の課題に応じた、アドバイスの仕方やアドバイスの受け方があること」とした。

また、対応した学習活動として、アドバイスの仕方を学んだ上で、アドバイスをし合う活動を設定した。

## (2) 「参画」における具体的な指導内容と対応した学習活動

「参画」においては、新学習指導要領解説の「学びに向かう力、人間性等」目標の解説や他領域の例示等を参考にし、評価基準を「課題解決に向けて話し合う場面で、合意形成に貢献しようとする事」に設定した。

具体的な指導内容については、「グループ内の話し合いの場面で、合意形成のために相手の話を聞いたり、自分の意見を言うことが重要であること」とした。

また、対応した学習活動として、単元全体を通して行う役割分担によって、相手の意見を聞くこと、自分の意見を言うことの重要性を学ぶように促した。単元前半では、グループ内の課題から、グループ練習の内容を話し合いで決定すること、単元後半では、グループの目標値から、各個人の目標値を話し合いで決定することに取り組んだ。

## (3) 「共生」における具体的な指導内容と対応した学習活動

「共生」においては、新学習指導要領の陸上競技では例示が示されているため、その例示から、評価基準を「一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事」に設定した。

具体的な指導内容については、「一人一人、目標や課題の違いに気が付くこと、相手の目標や課題に応じたアドバイスがあること」とした。

また、対応した学習活動として、アドバイスの仕方では、それぞれ課題や挑戦があることを理解した上で、「肯定的な言葉かけ」ができるようになることを目指した。単元前半の記録会では、それぞれの挑戦に対して、それを称える拍手など応援するマナーを指導した。単元後半では、それぞれの目標や課題に応じたアドバイスができるように、相手の目標値を把握した上でアドバイスを指導した。

表5 各指導事項における本研究の評価基準及び具体的な指導内容と学習活動

指導事項	協力	参画	共生
評価基準	仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い、高め合おうとしている	課題解決に向けて話し合う場面で、合意形成に貢献しようとする事	一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事
具体的な指導内容	相手の課題に応じた、アドバイスの仕方やアドバイスの受け方があること	グループ内の話し合いの場面で、合意形成のために相手の話を聞いたり、自分の意見を言うことが重要であること	一人一人、目標や課題の違いに気が付くこと、相手の目標や課題に応じたアドバイスがあること
対応した学習活動	アドバイスの仕方を学ぶ 専属コーチ制度	グループ練習を話し合いで決定 グループの目標値から各個人の目標を話し合いで決定	アドバイスの仕方を学ぶ 記録会のマナー 専属コーチ制度

※対応した学習活動については、「5 学習指導の工夫」(pp16～22 に記載)

## 第3章 検証授業

### 1 検証授業の基本的な考え方

#### (1) 研究協力校の決定

本研究の検証授業を行うにあたり、研究のねらいに沿った授業計画を作成し、授業実践を行う研究協力校の募集を行い、県立高等学校1校を研究協力校に決定した。

#### (2) 単元計画の作成について

本研究の研究アドバイザーである日本体育大学岡出美則教授の助言を得ながら、研究協力校の授業担当者らと生徒の実態に応じた「協力」「参画」「共生」を指導する単元計画を作成した。

#### (3) 協同学習を活用した授業づくり

昨年度の研究の成果を含め、協同学習の構成要素を踏まえた学習活動を岡出教授の助言のもとに考案、研究協力校の生徒の実態に合わせて、学習活動を設定した。また、単元の途中にも、岡出教授の助言を受け、学習活動の修正等を行った。

### 2 授業実践の方法

#### (1) 研究協力校

神奈川県立湘南台高等学校

#### (2) 期間

令和元年度9月13日～10月28日 14時間扱い

#### (3) 場所

同校 グラウンド、体育館、視聴覚室

#### (4) 授業者

同校 第2学年 陸上競技担当者

#### (5) 対象

第2学年 陸上競技選択者 123名  
1・2組 35名 (男子21名・女子14名)  
3・4組 41名 (男子20名・女子21名)  
5・6・7組 47名 (男子27名・女子20名)

#### (6) 単元名

C 陸上競技 14時間扱い (クラスによって授業時数に違いあり)  
エ 走り幅跳び (7時間扱い) ク やり投げ (7時間扱い)  
※やり投げの授業ではジャベリックスローを実施した。(p22に詳しく記載)

#### (7) 主なデータの収集方法

##### ア アンケート調査

(ア) 事前アンケート 各クラス最初の時間に実施  
学習指導要領実施状況調査 (一部修正) の内容を実施。

(イ) 事後アンケート 各クラス最後の時間に実施  
事前アンケートの内容に加え、授業の振り返りを含めた内容を実施。

### 3 検証の視点

学びに向かう力、人間性等を涵養することができたか

具体的な視点	手掛かり	内容	
学びに向かう力、人間性等を涵養することができたか	事前・事後アンケート	協力	体育の学習では、仲間の記録を計るなど学習を補助したり、技術の行い方などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようとしていますか。
		参画	体育の学習では、グループでの話し合いの必要性が生じた場合、チームなどの課題の解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとしていますか。
		共生	体育の学習で、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、人には違いがあることに気付き、互いを認めようとしていますか。 体育の学習で、人には違いがあることに気付き、みんなが楽しめるように調整をしようとしていますか。

### 4 学習指導計画（研究協力校における現行の学習指導要領によるもの）

#### （1）単元の目標

ア 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができるようにする。

##### ○跳躍

走り幅跳びでは、スピードに乗った助走と力強い踏み切りから着地までの動きを滑らかにして跳ぶこと。

##### ○投てき

やり投げでは、短い助走からやりを前方にまっすぐ投げること。

イ 陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。

ウ 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

#### （2）単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
陸上運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事など、健康・安全を確保して、学習に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	陸上競技の特性に応じた、各種目の技能を高めて、身に付けている。	技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。

(3) 学習活動に即した評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
①互いに助け合い高め合おうとしている。 ②健康・安全を確保している。	①課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直している。 ②グループで活動する場面で、状況に応じた自己や仲間の役割を見付けている。	①走り幅跳びでは、タイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ることができる。 ②やり投げでは、助走で得た勢いを投げの動作に移すことができる。	①技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。
【観察】	【学習カード】【観察】	【観察】【記録】	【学習カード】



(4) 単元の概要

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
時間		跳躍（走り幅跳び） 課題に対し、グループによる課題解決の活動の仕方を学ぶ							投てき（やり投げ・ジャベリックスロー） グループごとに目標と課題を設定し、課題解決と目標達成を目指してよりよいグループ活動に取り組む。							
学習過程	10	学習の流れ説明	本時の説明・課題の確認							走り幅跳び（振り返り）	本時の説明・課題の確認					
		ウォーミングアップ・動きづくり	班・役割決定	班ミーティング	ウォーミングアップ			班別練習	握り方・構え方		ウォーミングアップ			記録発表		
	20	ウォーミングアップ・動きづくり	ウォーミングアップ		スピードを落とさず踏切に合わせる			腕・肩の引き上げ	アドバイス方法	班別練習	ポイント確認	助走の動きから投げに移す				
		試しの計測・課題設定	4歩目マーク	4歩を合わせる	踏切のリズム	着地姿勢班別練習	記録会	突き刺し・立ち投げ一歩助走・クロスステップ	ポイント確認		短い助走から投げる					
	30	試しの計測・課題設定	スピードを落とさず踏切	計測	班別練習	計測		試しの計測	目標決め	班別練習	班別練習と計測				振り返り	
	40	クーリングダウン・学習のまとめ・本時の振り返り														
50	クーリングダウン・学習のまとめ・本時の振り返り															
指導時期	態度	②				①										
	思考判断		②								①					
	技能			①						②						
	知識理解		①-1									①-2				
評価時期	態度				②-1				②-2		①					
	思考判断		②							①						
	技能					①							②			
	知識理解		①-1									①-2				
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		

\* 上記の学習過程・指導と評価の計画の技能については主な指導日のみ記載されている。  
 (各時間の展開の技能については具体的な指導になるので上記には記載はない)

## 5 学習指導の工夫

### (1) 学習過程の工夫

#### ア 指導内容の明確化と振り返り

単元の始めに、本単元のねらいを「協力」「参画」「共生」を涵養するための授業であることを生徒に伝え、指導内容の明確化を図った。生徒には、指導内容がわかりやすく伝わるように「協力」というキーワードを使用して説明を行った(図4)。その説明の中で、「参画」「共生」の内容についても説明を行うこととした。単元の最後には、振り返りの活動を実施した。生徒自身が何を学び、何が出来るようになったかを考える、振り返りの時間となった。

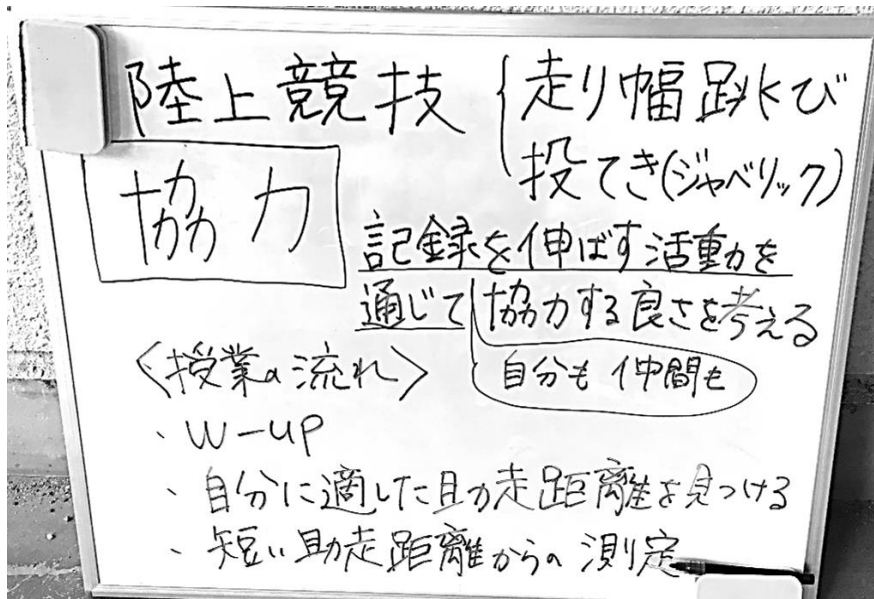


図4 単元のねらいの周知

#### イ 単元を前半、後半に分けた指導計画

「協力」「参画」「共生」を目指した協働的な活動を設定するだけでなく、その活動をより円滑にし、効果的に指導する資質能力の涵養を目指し、単元を前半と後半に分けて単元計画を作成した。単元の前半を「課題に対し、グループによる課題解決の活動の仕方を学ぶ」期間とし、「協力」「参画」「共生」をするための知識やスキルを学ぶこととした。後半を「グループごとに目標と課題を設定し、課題解決と目標達成を目指してよりよいグループ活動に取り組む」期間とし、前半に学んだ知識やスキルを活用して、実践する期間とした。また、単元の前半で走り幅跳び、後半ではやり投げと種目を変えることとした。

#### ウ 毎授業の振り返りと学習カード【協同学習構成要素、振り返り(改善手続き)の時間】

本研究では、毎授業の最後に振り返りの時間を設定した。グループでの教え合い活動の振り返りと次の授業への改善のために、単元の前半では、「肯定的な言葉かけ」がどのように行われたかを学習カードに記載すること、また、教師が上手に言葉かけができていたグループの言葉を紹介することとした。単元の後半では、他者からもらったアドバイスの確認から、次の授業の課題を決めることと、教師が上手にアドバイスできたペアを紹介した。

学習カードでは「協力する意義」を考えることを求めた。また、授業の中で「アドバイスができた理由」「アドバイスができなかった理由」を問うことで、授業改善の手立てを教師が考える要素にすること、生徒同士で学び合いが円滑にできているのかを確認する要素とした。「学びに向かう力、人間性等」の評価は観察によるものとなっているが、学習カードが観察を効果的、効率的に実施するために有効に活用できると考えた。



単元の後半では、「アドバイスの約束」「アドバイスを受ける側のルール」をそれぞれのグループで3つずつ決定した。単元前半の活動の中で、どのような声掛けがよかったかを考え、単元後半で気をつけることを中心に決めた。「アドバイスの約束」の記載内容から、単元前半の「肯定的な言葉かけ」を踏まえた内容が多く見られた。**表6**は実際にグループで決めた「アドバイスの約束」と「アドバイスを受ける側のルール」の例である。

**表6 「アドバイスの約束」と「アドバイスを受ける側のルール」の例**

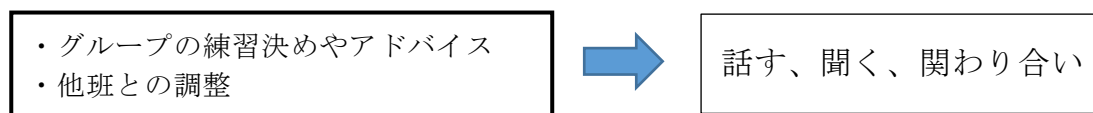
アドバイスの約束	アドバイスを受ける側のルール
前向きな言葉	受け入れる(自分の出来ていない部分を受け入れる)
テンションなど気分や雰囲気を下げない、ネガティブな言葉はダメ	誠意に答えられるように
声だけでなく、身振り、手振り、拍手などをして大きくアドバイス	アドバイスはアドバイスで返す

### (3) 参画を目指した学習活動の工夫

#### ア グループ内で役割を設定する【グループ目標の達成に対する個人の責任】

「参画」をするスキルを身に付けるために、班の中で役割を設定し、各授業で役割に応じた仕事を行うこととした。自分の役割を担う中で、相手の話を聞くこと、相手に指示をすること、グループ内で合意形成をするスキルの育成を目指した。生徒には、「参画のポイント」として、グループの練習決めやアドバイス、他班との調整を「話す、聞く、関わり合い」という言葉で説明をした。

○生徒に提示した「参画」するためのポイント



単元の前半では、それぞれの役割の内容を教師側が指定し、単元の後半では、前半の活動を踏まえた上で、各グループの中でそれぞれの役割の内容を生徒が考案し、その役割を担うことを求めた。このことは、陸上競技における「責任」の例示、「仲間と必要な役割を作ること、その役割を、責任をもって分担すること、果たすべき責任が生じた場合には、積極的に引き受けることを大切にしようとする」と意識した活動であり、本研究では「参画」をするスキルのための指導として位置付けた。下の**表7**は本研究で行った役割とその内容であり、**表8** (p.19) は実際に単元後半で生徒が考案したグループの役割の例である。また、本単元では、評価をすることはしなかったが、参考として**表9** (p.19) に、評価規準と具体的な指導の内容と学習活動を示した。

**表7 本研究で行った役割と内容**

役割	内容 (単元前半)	内容 (単元後半)
班長	出席時の体調確認、班のまとめ	前半の単元を踏まえ、各班でそれぞれの役割の内容を考案し、その役割を担う
記録	計測時のリーダー、記録カードの取りまとめ	
用具	用具の準備、片付け	
安全	アップのリーダー、活動時の安全指導	

**表 8 単元後半で生徒が考案したグループの役割例**

役割	生徒が考案した役割内容
班長	グループ員の健康・出席管理、班を盛り上げる
記録	記録をする、成長を褒める
用具	率先して準備、片付けをする
安全	準備運動、周りをよく見て安全管理

**表 9 「責任」の評価規準及び具体的な指導内容と学習活動**

指導事項	責任
評価規準	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること
具体的な指導内容	グループには必要な役割があり、その役割を自分で見つけて、担うことが必要なこと
対応した学習活動	単元を通した役割分担

イ グループの話し合いで学習活動を決定する

単元の前半で、教師が提示した複数の活動から、グループの話し合いで学習する活動を選択することを求めた。誰か一人の意見だけで、決定することがないように注意をした。また、選択した活動にグループ全体で取り組むことを求めた。また、学習カードで、どの活動を選択したかと選択した理由の記入を求めた。このことにより、話し合いがしっかり行われているかと合意形成がされているかの参考にすることができ、必要に応じて、それぞれのグループに指導を行うことができた。

ウ グループの目標を達成することを目指した活動【協同的(互恵的)な相互依存性】

単元を通して、「自分も仲間も記録を伸ばす。」ことを目指してグループ活動を行うこととした。単元の後半では、グループの記録の合計で目標値を設定し、その目標の達成のために活動をした。目標値の設定については、試しの計測の記録をグループで合計し、その1.3倍の記録を目標値に設定した。グループ目標達成のために自己の記録を伸ばすこと、自分の記録だけでなく、仲間にアドバイスをすることやグループの活動を円滑に行うことで仲間の記録向上に貢献していこうとするような意識の醸成を促した。図8はグループの目標値と個人の目標値をグループで共有するために使用したカードである。

投てき(ジャベリックスロー) 記録表															
		組	班	【班の目標 m】				【修正した班の目標 m】							
その日のベスト記録を下の表に記入し、班の合計を計算しよう。															
組	番	氏名	月 日		月 日		月 日		月 日		月 日		記録会 月 日		
			ための測定	step1目標	記録	step2目標	記録	step3目標	記録	step4目標	記録	target目標	記録		
			m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	
			m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	
			m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	
			m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	
			m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	
			m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	
班の合計			000	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm

**図 8 グループ目標達成のための記録表**

エ 話し合いで個人の目標値を設定する

グループの目標値（試しの記録×1.3）を達成するために、個人の目標値をグループの話し合いで設定した。技能差や性差等を踏まえながら、話し合いで一人一人の目標をグループで決定をすることを求めた。また、各授業では、その時間の個人の目標値をグループで話し合いにより決定した。生徒は、その日の体調や前時までの調子を考慮した上で、その時間の目標値を決めていた。毎授業、それぞれの課題や挑戦に対して、専属コーチがアドバイスできるように促した。

(4)「共生」を目指した学習活動

ア アドバイスの仕方を学ぶ（共生）【協同学習構成要素、社会的技能の指導と活用の奨励】

共生を目指した学習活動としてのアドバイスの仕方では、単元の前半で、「肯定的な言葉かけ」を指導した。アドバイスをする時に、相手の課題や出来ていない所を指摘するだけでなく、良かった所や前回との比較などを使用して、前向きな言葉かけをすることを目指した。図9はその時に使用したホワイトボードの記載である。また、「肯定的な言葉かけ」を指導した時間から、学習カードに「班員にかけてもらって印象に残っている言葉は？」という発問に対する記入欄を設けた。授業の振り返りでは、教師が良い言葉かけをしていた場面を紹介し、授業中の活動の成果を振り返った。

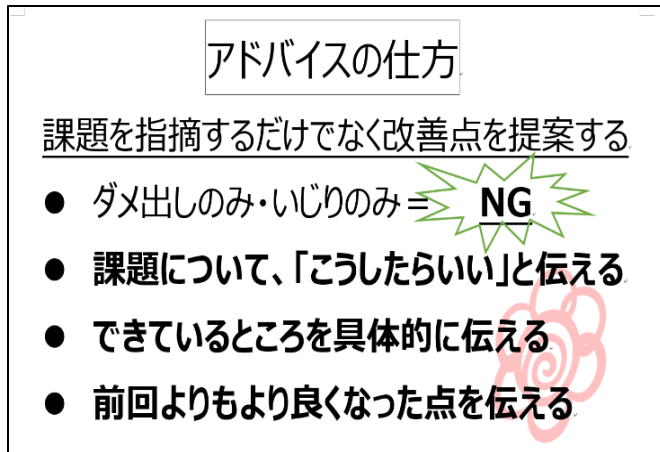


図9 共生を目指したアドバイスの仕方

イ 教師による称賛

教師は授業の中で、または授業の振り返りの際、意図的に「肯定的な言葉かけ」をし、生徒に人を認める具体的なモデルとして提示した。教師が積極的に「肯定的な言葉かけ」を行うことで、その効果等を生徒が実感できること、また具体的な実践例を教師が示すことを目的とした。

ウ 記録会での応援のマナー

各種目の最後の時間に記録会を設定した（ジャベリックスローは天候により実施できなかったクラスもあった）。記録会では、（試技の）準備、試技、記録、応援とグループで役割を担いながら、全てのグループが協力をして行った。応援の場面では一人一人がそれぞれの課題に対する挑戦を行っていることを説明し、応援のマナーとして「①良い試技に拍手」「②けなさない」の2つのルールを提示し、みんなが気持ちよく試技ができるように声をかけた。記録の良し悪しではなく、競技者の挑戦を認め、称えることで、全員が記録会を楽しめるように指導した。

## (5) 教材、教具の工夫

### ア チェックシートの作成・活用

アドバイスのスキルを育成するだけでなく、アドバイスを容易にするための手段としてチェックシートを作成・活用した。フォームチェックシートでは、フォームをチェックするポイントやチェックする場所を明確にし、専属コーチがシートを確認しながら、練習者にアドバイスができるようにした。角度チェックシートでは、練習者が投げたターボジャブが理想的な角度で飛んでいたかを確認できるようにした。図 10 は授業で使用したフォームチェックシートの1つであり、図 11 は実際にそのシートを使用した活動である。図 12 は、ターボジャブの投げ出した角度をチェックするシートと図 13 はそのチェックをしている授業の様子である。※ターボジャブ…図 16 参照

#### 投げる動作（後ろからのチェック）

- クロスステップに入り、体をひねった時に腕が反対側まで伸びていない。



図 10 フォームチェックシート



図 11 フォームチェックシートの使用

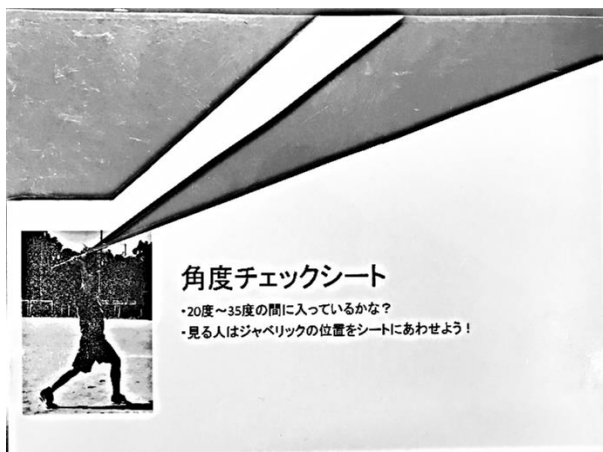


図 12 角度チェックシート



図 13 角度チェックシートの使用

#### イ ホワイトボードの活用

本研究授業の中で、生徒同士の教え合いの時間やグループ活動の時間が多いことから、ホワイトボードを有効に活用することとした。活用方法としては、ねらいや授業の見通しを持たせるための活用（図14）と学習活動をわかりやすく、困ったときに確認ができるようにするための活用（図15）である。

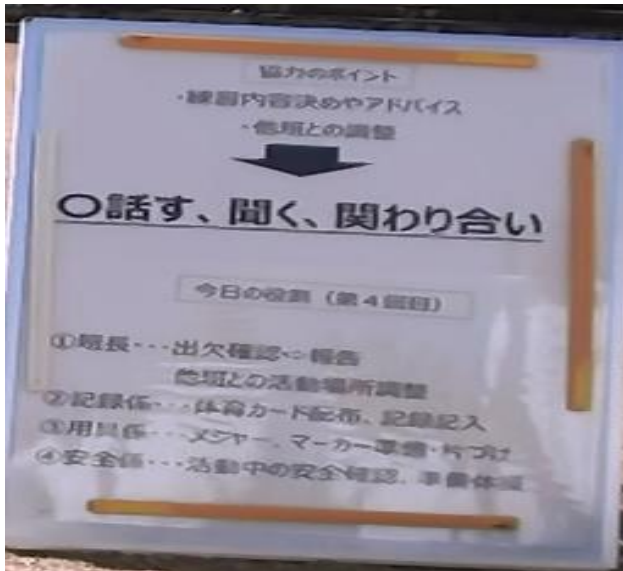


図14 授業のねらいや見通しをもたせるための活用

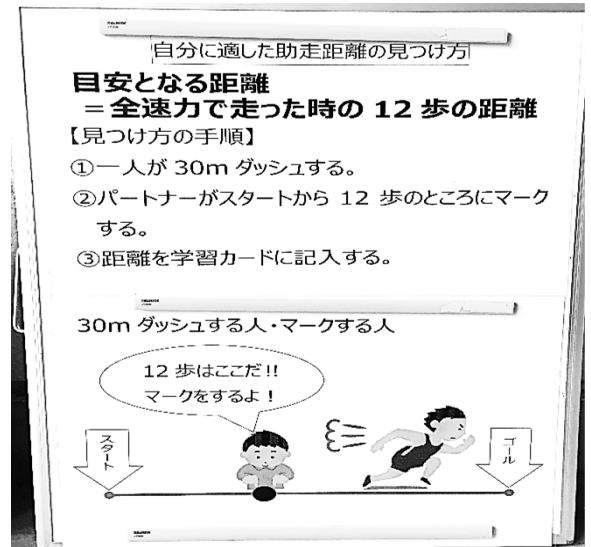


図15 学習活動の確認のための活用

#### ウ ジャベリックスローによる授業

ジャベリックスローとは、ターボジャブを投げた距離を競う競技で、ターボジャブの重さは300g、長さは70cmで、やり投げの導入として開発されたものである。図16は授業で使用したターボジャブである。

本研究では、生徒の大多数が初めてやり投げを実施することから、やり投げの技能に比べ、比較的技能の習得が優しい、ジャベリックスローの授業を行うこととした。また、やり投げに比べ、安全性が高いジャベリックスローを行うことで、試技数の増加、教え合いの時間を増加させることができると考えた。



図16 授業で使用したターボジャブ



## 6 授業の実際

(1) 1/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<関心・意欲・態度②>健康・安全を確保することができるようにする。(評価：4/14 時間)

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 12分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 単元の流れ 3 本時の説明 4 準備運動 ○ランニング ○2人組ストレッチ	○全体の流れと、記録を伸ばすために工夫をすることと、誰かのために自分が手助けすることを行う授業であることを伝える。 ○自分がどのくらいの助走距離をとったらいいか、目安となる12歩の距離を測り、そのあとに短い助走からの走り幅跳びを計測するという授業の流れを伝える。 ○準備運動は教員が指示して全体で行う。
なか 26分	<b>【学習内容】</b> 自分に適した助走距離を知り、短い助走から踏み切って跳んだ距離を計測する。	
	5 助走距離を決める ○30mを全力で走り、12歩の距離を計測する。 ○ペアで見合い、12歩のところにマークする。  6 ためしの測定	<技能①><関心・意欲・態度②> ○12歩の距離を目安とし、今後の授業で調節することを伝える。 ○ここでは、全力で30m走るように指示する。 ○ペアで見合い、12歩目にマークするように指示する。 ○実施者と補助者が交錯しないようお互いに声をかけ、走る前に走路を確認し合うよう注意する。
	<b>【発問】</b> 遠くに跳ぶために、助走は自分の全速力を考えて、どのくらいのスピードがいいか？	
	<b>【予想される答え】</b> 踏切に合わせるために、ほどほどのスピード      全速力   速く	
	○短い距離でトップスピードになり、踏み切るときは、しっかりと踏み切ることができるスピードになるように調節することを学ぶ。 ○①砂場をならす人②メジャーを読む人③踏切が正しく行われているか判定する人④跳ぶ人にわかれて計測する。必ず一人1回計測する。 ○踏切板を踏み越えたらファールであること、踏切板に一番近い着地点と、踏切板を直角に結んだ距離を計測することを学ぶ。	○ファールになっても記録を残すようにする。  ○着地点にメジャーの0を合わせ、踏切版の砂場に近い方を直角に合わせ、数字を読み上げるように指示する。
	7 クーリングダウン・片づけ	○用具係を中心に分担して片づけるように促す。
まとめ 12分	8 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○体調確認をする。 9 次回の確認・挨拶	○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○学習カードに試しの計測の記録を確実に記入していることを確認する。

(2) 2/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<思考・判断②>グループで活動する場面で、状況に応じた自己や仲間の役割を見付けることができるようにする。(評価：2/14 時間)

<知識・理解① - 1>技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げることができるようにする。(評価：2/14)

イ 本時の評価

<思考・判断②>グループで活動する場面で、状況に応じた自己や仲間の役割を見付けることができる。【学習カード】【観察】(指導：2/14 時間)

<知識・理解① - 1>技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げることができる。【学習カード】(指導：2/14 時間)

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。
なか 30分	3 個人の目標設定 ○記録カードに個人の目標を記入する。 4 班決定・役割分担 ○班に分かれて自己紹介をする。 ○役割を決定する。 5 班別に準備運動 ○ランニング・ストレッチ 6 助走4歩のマークをする	○個人で目標を自由に設定するように指示する。  <思考・判断②> ○平均距離が同じになるように班分けをし、発表する。 ○各班で自己紹介をするように指示する。 ○役割の仕事内容を書き出して提示する。 ○役割分担をすることを通じて自分の役割を見付けやすくする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【学習内容】 助走と踏切を合わせるために、助走の始めから4歩目までの距離をマークし、4歩目までを合わせて走り、助走スピードを落とさずに踏切のタイミングを合わせること。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問】 助走から踏切はぴったり合わなかった人はどのように合いませんでしたか？ 【予想される答え】 ファールしてしまった 届かなかった ちょうどよかった</p> </div>	
	○助走と踏切を常に同じ歩数で走ることが助走のスピードを落とさずに踏み切るための一つのコツであること、同じ歩数で走るが、踏切が合わないのは、最初の4歩目までがずれやすいことを学ぶ。 ○30mを全力で走り、4歩の距離を計測する。 7 助走と踏切を合わせる ○マークに4歩目が合うように助走する。 ○残りの助走路はスピードを落とさずに踏切線で踏み切る練習をする。  8 クーリングダウン・片づけ	<知識・理解① - 1> ○助走と踏切を合わせるために、常に同じ歩数で同じ距離を走る必要があるが、初めの4歩までがずれやすいので、それを合わせるためにマークすることを説明する。 ○4歩目の距離がわかったら、マークと4歩を合わせる練習に移るよう指示する。 ○4歩目以降の助走はスピードを落とさずに踏み切るように促す。 ○それでも合わないときに、どのくらい合わないのかを明確に自覚するように促す。  ○用具係を中心に分担して片づけるように促す。
まとめ 15分	9 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○体調確認をする。  10 次回の確認・挨拶	<<思考・判断②>>【学習カード】【観察】 <<知識・理解① - 1>>【学習カード】 ○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○今日学んだことを全体で振り返るときにはノートに記入せずに話を聞くように注意する。 ○助走が合わなかった人は、次回調節して助走距離を決めなおすことを伝える。 ○学習カードを班ごとに記録係が回収・提出し解散させる。

(3) 3/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<技能①>走り幅跳びでは、タイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ることができるようにする。

(評価：5/14 時間)

(助走のスピードを落とさずにタイミングよく力強く踏み切ることができるようにする。)

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。
なか 30分	3 班ミーティング ○前回の活動までを振り返り、班の仲間の良いところを伝え合う。	○これまでの授業で、課題やできていないところを指摘して伝えることはできるが、良いところを伝えることが不足していることから、うまくいったことを伝えることも同じくらい必要なことを説明する。 ○班別練習や教え合いをする際に良いところを伝えることの意義を実感させる。 ○生徒同士の心をほぐすように雰囲気をつくる。
	4 班別に準備運動 ○ランニング ○ストレッチ	○班でまとまって活動するように指示する。 ○安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
	5 助走開始から4歩目を合わせる	
	【学習内容】 <技能①>走り幅跳びでは、タイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ること。そのためには助走のスピードを落とさずタイミングよく踏み切ること、助走のスピードを落とさないためには、助走が一定の歩数と距離で踏切まで行えることがコツの一つであること。	
	【発問】 どうやったら、助走の距離と歩数が一定になるだろうか？	
	【予想される答え】 初めから全速力で走る ・ 練習でも全力で走る ・ 助走距離を覚える ・ 友達に見てもらって練習する ・ スタートから4歩目までを一定距離でいけるように練習する 等	
	○マークに4歩目が合うように助走する。 ○残りの助走路はスピードを落とさずに8歩程度で走り踏切線に届き、踏切足で力強く踏み切る練習をする。	○4歩目が常に合うようにペアで見合って練習するように促す。 ○残りは8歩程度になるはずなので、残りは全力で走り切ったときに踏切線まで常に同じ歩数でたどり着いているかペアで見合うよう指示する。 ○合わないときは助走距離を伸ばしたり、縮めたり、スタートの足を左右変えてみたり工夫するように指導する。
	6 計測 ○4歩目をしっかり合わせたり、調整した助走距離や助走のスタートの踏み出しを左右どちらにするかなど工夫したりして計測に臨む。	
	7 クーリングダウン・片づけ	○用具係を中心に分担して片づけるように促す。
まとめ 15分	8 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○体調確認をする。 9 次回の確認・挨拶	○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○助走の距離と歩数の調整結果を学習カードに記入するよう促す。 ○学び合いについては生徒が取り組んだことに気付くことができるよう、実際の例を挙げ、声をかける。 ○学習カードを班ごとに記録係が回収して提出し解散させる。

(4) 4/14 時間の展開

ア 本時のねらい

＜技能①＞踏切のリズムを覚える。

イ 本時の評価

＜関心・意欲・態度② - 1＞健康・安全を確保することができる。【観察】（指導：1/14 時間）

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。 ○班で活動するので、その際は班内で練習の補助をしあうことや、他の班とも練習場所を融通して行うような必要のあることを説明する。 ○班でまとまって準備運動を行うように声をかける。 ○安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
なか 30分	4 ミニハードルで踏切の動きづくり  【学習内容】 ＜技能①＞踏切のリズムを覚える。	＜技能①＞  ○「タ・ターン」のリズムでハードルを越えるように指導する。 ○リズムが良くなって来たら、両腕・肩の引き上げで振り上げ足を高く上げるように指示する。 ○ジャンプが高くなると片足で着地することが難しくなることから、両足着地にするとともに、走り幅跳びの動きにつながるように示範する。 ≪関心・意欲・態度② - 1≫ 【観察】 ○班ごとにどの練習がいいか意見交換して合意形成の上、班で選ぶように指示する。 ○班単位で動くように指示する。 ○途中で別の練習に切り替えるときは、他の班とも調整して交代しながら行うように指示する。 ○安全係を中心に、練習場所の安全を確保して行うように注意する。 ○練習者と、練習補助者がお互いに声を掛け合って行うように促す。 ○巡回して、つまずきのある生徒に助言する。 ○用具係を中心に、活動場所の用具を片づける。
	【発問】 助走で力強く踏み切るために、踏切を合わせるときに、上手な人はどのようにしていると思いますか？	
	【予想される答え】 常に同じ歩幅にしている 最後までスピードが落ちない 最後少し歩幅が小さくなっている 最後の2歩が素早いリズムになっている	
	○踏切足のキックを強調してミニハードルを1歩で越える。 ○ミニハードルを越えるときに、だんだんと両腕・両肩、振り上げ足を高く上げる。 ○両腕・両肩、振り上げ足が高く上がるようになり、ジャンプが大きく、高くなってきたら両足で着地をする。	
	5 班別練習 ○班で話し合い、①～③から、重点的に行いたい練習を選んで取り組む。 ①4歩目とマークを合わせる練習 ②4歩目のマークからスピードを落とさずに踏み切る練習 ③ミニハードルで踏切の動きづくり ○練習場所の安全を確保して取り組む。	
	6 クーリングダウン・片づけ	
まとめ 10分	7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習ノートの記入をする。 ○体調確認をする。 8 次回の確認・挨拶	○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○学び合いについては生徒が取り組んだことに気付くことができるよう、実際の例を挙げ、声をかける。 ○ノートを班ごとに記録係が回収して提出し解散させる。

(5) 5/14 時間の展開

ア 本時のねらい

＜技能①＞助走のスピードを落とさずに踏み切ることができる。跳び出しの角度と着地姿勢の確認をする。

＜関心・意欲・態度①＞互いに助け合い高め合おうとすることができる。(評価：10/14 時間)

イ 本時の評価

＜技能①＞走り幅跳びでは、タイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ることができるようにする。

【観察】【記録】(指導：3/14 時間)

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明  3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。 ○班で活動するので、その際は班内で練習の補助をし合うことや、他の班とも練習場所を融通して行うようことが必要なことを説明する。 ○班でまとまって準備運動を行うように声をかけ、安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
なか 30分	4 着地姿勢の確認  【学習内容】 <技能①>安全に、距離を伸ばすための跳び出しの角度と着地姿勢を確認する。  ○けがをしないように安全な着地の仕方を確認する。 ○写真の着地姿勢を見比べて、班の仲間同士アドバイスし合うことを知る。	○具体的な着地姿勢の写真を用いて説明する。 ○跳び出す角度の図も提示する。 ○砂場で練習する際に着地姿勢をお互いにチェックしながら行う。 <関心・意欲・態度①>
	5 アドバイスの仕方  【学習内容】互いに助け合い高め合おうとすること。できない点や失敗した点ばかりを指摘するのではなく、良くなった点を指摘すること。	○アドバイスする際には、課題となる点だけでなく、「前と比べて」よくなった点について指摘するように指導する。 ○アドバイスする人はうまくできたところを多く見つけるようにすることを促す。
	○アドバイスは次の観点について指摘し合うことを学ぶ。 ◆ 跳び出す角度 ◆ 踏切位置 ◆ 助走のスピード ◆ 踏切のリズム・力強さ ○良い点を多く指摘することを学ぶ。	○どの練習がいいか意見交換して合意形成の上、選ぶように指示する。 ○班単位で動くように指示する。 ○途中で別の練習に切り替えるときは、他の班とも調整して交代しながら行うように指示する。 ○安全係を中心に、練習場所の安全を確保して行うように注意する。 ○練習者と、練習補助者がお互いに声を掛け合っ行うように促す。 ○巡回して、つまずきのある生徒に助言する。
	6 班別練習 ○班で話し合い、①～③から、重点的に行いたい練習を選んで取り組む。 ①4歩目とマークを合わせる練習 ②4歩目のマークからスピードを落とさずに踏み切る練習 ③ミニハードルで踏切の動きづくり ○練習場所の安全を確保して取り組む。	<<技能①>>【観察】【記録】
7 計測		
8 クーリングダウン・片づけ		○用具係を中心に、活動場所の用具を片づける。

<p>ま と め 15 分</p>	<p>9 本時のまとめ  ○本時の学習を振り返る。  ○学習カードの記入をする。  ○体調確認をする。</p> <p>10 次回の確認・挨拶</p>	<p>○ケガ、体調不良等の確認をする。  ○学び合いについては生徒が取り組んだことに気付くことができるよう、実際の例を挙げ、声をかける。  ○特に、良い活動をしていたところを全体で紹介する。  ○学習カードを班ごとに記録係が回収して提出し解散させる。</p>
-----------------------------------	--	---

(6) 6/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<技能①> 助走のスピードを落とさずに踏切をリズムよく行う。跳び出しの角度と着地姿勢に気を付けて練習し、タイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ることができるようにする。

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明  3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。 ○アドバイスする際には、課題となる点だけでなく、次の観点を「前と比べて」よくなった点について指摘するように確認する。 ◆ 跳び出す角度 ◆ 踏切位置 ◆ 助走のスピード ◆ 踏切のリズム・力強さ ○班でまとまって準備運動を行うように声をかける。 ○安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
なか 30分	<b>【学習内容】</b> <技能①> 記録会に向けてベスト記録の更新を目指す活動を通してタイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ること。	
	4 班別練習 ○班で話し合い、①～③から、重点的に行いたい練習を選んで取り組む。 ① 4歩目とマークを合わせる練習 ② 4歩目のマークからスピードを落とさずに踏み切る練習 ③ ミニハードルで踏切の動きづくり ○練習場所の安全を確保して取り組む。 ○練習場所を交代しながら、記録を測定できるときは記録を残す。  5 クーリングダウン・片づけ	○班ごとにどの練習がいいか意見交換して合意形成の上、班で選ぶように指示する。 ○班単位で動くように指示する。 ○途中で別の練習に切り替えるときは、他の班とも調整して交代しながら行うように指示する。 ○安全係を中心に、練習場所の安全を確保して行うように注意する。 ○練習者と、練習補助者がお互いに声を掛け合って行うように促す。  ○用具係を中心に、活動場所の用具を片づける。
まとめ 10分	6 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○体調確認をする。  7 次回の確認・挨拶	○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○学び合いについては生徒が取り組んだことに気付くことができるよう、実際の例を挙げ、声をかける。 ○特に、良い活動や学び合いをしていたところを全体に紹介する。 ○学習カードを班ごとに記録係が回収して提出し解散させる。

(7) 7/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<技能①>走り幅跳びでは、タイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ることができるようにする。  
自己の記録を伸ばすことに挑戦したり、競い合ったりする楽しさを味わう。(評価：5/14 時間)

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明  3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。 ○記録会は、試技、記録係、応援、準備をそれぞれ班の単位でローテーションして行うことを説明する。 ○応援のマナーや約束事を確認し、自分の記録を伸ばすことに挑戦したり、競い合ったりする楽しさを味わえるようにする。  ○班でまとまって準備運動や準備を行うように声をかける。 ○安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
なか 30分	4 班別練習 ○記録会に向けた練習や準備を班ごとに行う。  5 記録会 ○試技は2回実施する。 ○班の中で1回ずつ全員が試技を終了したら、2回目の試技を行う。 ○班ごとに①試技②応援③記録④試技の準備にわかれて記録会を運営する。 ○応援は、失敗してもけなさないこと、よい跳躍には拍手で称賛を示すことなどを守る。 ○記録係は班の中で「砂場ならし」「ファウルの判定」「メジャーで測定」「記録記入」を分担する。  6 クーリングダウン・片づけ	○イベントの要素を打ち出し、記録会の雰囲気を出す。  ○ファウルであっても参考記録として記録を残す。 ○試技者と、記録係がお互いに声を掛け合っているように促す。 ○応援も含め、それぞれの役割に責任をもって取り組むように指導する。 ○記録係は計測の結果を確実に記録カードに記入することを指示する。
まとめ 10分	7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○体調確認をする。  8 次回の確認・挨拶	○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○特に、良い活動や学び合いをしていたところを全体に紹介する。  ○次回から投てきになることを指示する。



(8) 8/14 時間の展開

ア 本時のねらい

＜技能②＞助走で得た勢いを投げの動作に移すことができる。(評価：12/14 時間)

イ 本時の評価

＜態度②＞健康・安全を確保している。【観察】(指導：5/14 時間)

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ(班ごと)	○今日から2種目目のジャベリックスローを行うことを伝える。合わせて記録会までの大きな流れも説明する。 ○今日は、練習を少し行った後に試しの測定をすることを説明する。
なか 28分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>【学習内容】</b>              助走で得た勢いを投げの動作に移すことができる。           </div> 4 ジャベリックスロー練習 ○ジャベリックスローの持ち方・投げ方を確認する。  ○練習を、一人4投程度行う。 ①はじめは、助走をせずに地面に向かって投げる練習を行い、ジャベリックを投げる感覚を知る。 ②次に一歩だけ助走して真っ直ぐ投げる練習を行う。  5 ためしの測定 ○①メジャーを読む人②ジャベリックを拾う人③投げる人④記録用紙に記入する人にわかれて計測する。一人2回計測をする。 ○線を踏み越えたとき、ジャベリックスローの穂先以外の部分が先に地面に落ちた時、ジャベリックスローがサイドラインより外側に落ちた時はファールであることを学ぶ。  6 片づけ	<技能②> ○試しの測定に向けてジャベリックスローの持ち手の位置、投げるポイント、測定方法やルールを説明する。  ○ジャベリックが正しく持っていないと真っ直ぐ投げられないことを伝える。  ≪態度②≫【観察】 ○ファールになっても、今日は、試しの測定なので記録を残すようにする。  ○数字を読み上げる時は、記録する人に聞こえるようにすることを指示する。
まとめ 12分	7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○体調確認をする。 8 次回の確認・挨拶	○ジャベリックスローを投げた感想を聞く。 ○次回は視聴覚室で技能のポイント確認、班活動を行うことを伝える。

(9) 9/14 時間の展開

ア 本時のねらい

＜思考・判断①＞課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直している。(評価：9/14 時間)

イ 本時の評価

＜思考・判断①＞課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直すことができる。

【学習カード】【観察】(指導：9/14 時間)

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 5分	1 集合・挨拶・出席確認 2 本時の説明	○走り幅跳びの振り返り、ジャベリックスローのポイント確認、班活動を行うことを説明する。
なか 35分	3 走り幅跳びの振り返り ○記録会の結果を聞く。  4 ジャベリックスローのポイント確認 ○やり投げ、ジャベリックスローの映像を見る。 ○フォームのポイントが示されている写真を見てポイントを学ぶ。①ジャベリックの向きが後ろに引いた時からリリースの時まで投げる方向に向いていること。②肩が投げる方向に対して真っ直ぐ向いていること。  5 班活動 ○ジャベリックスローを行う時の役割を決め、役割内容も確認して役割表に記入する。 ○ペア(専属コーチ)を決める。 ○走り幅跳びでの活動を踏まえアドバイスの約束(・どういった声かけが良かったか・アドバイスの約束・アドバイスを受ける側のルール)を話し合わせて表に記入させる。 ○試しの記録を記入し、個人の目標とチーム目標を計算し記入する。	○映像を流しながら、助走をしっかりとっていること、投げ出しの角度がななめ上になっていることを説明する。  ○ジャベリックと体の向きが大切だと伝える。  ≪思考・判断①≫【学習カード】【観察】 ○役割内容は、前回まで行っていたことに一つ以上追加するように指示する。 ○話し合いがうまく進んでいない班には、適宜助言をする。
まとめ 10分	6 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○体調確認をする。 7 次回の確認・挨拶	○アドバイスの約束を2、3班紹介する。

(10) 10/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<知識・理解①-2>技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。(評価：10/14 時間)

<技能②>ジャベリックを後方に真っ直ぐ引くことができる。

イ 本時の評価

<<知識・理解①-2>>技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げることができる。

【学習カード】

<<態度①>>互いに助け合い高め合おうことができる。【観察】(指導：4/14 時間)

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 12分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ(班ごと)	○本時の流れがわかるように提示する。 ○前回立てた目標値(step1)をペア(専属コーチ)で確認させる。
なか 26分	【学習内容】 <技能②>ジャベリックを後方に引いた姿勢でステップを行い投げの動作に移すこと。	
	4 班別練習・計測 【発問】 ジャベリックを真っ直ぐ投げるために意識することは？	
	【予想される答え】 正しく持つ    真っ直ぐ引く    体の向き	
	○役割に応じて準備する。  ○各活動場所で、練習と補助の順番を決める。 ○フォームチェックシートを使いながら練習と計測を行う。 ○ジャベリックを後ろに引いた時の穂先の向きが真っ直ぐ向いている時は、真っ直ぐ投げられることを知る。	○全体で活動場所、安全上の注意、今日の技能のポイント(ジャベリックを後方に引いた時の穂先の向きはまっすぐ前)、フォームチェックカードの使い方を説明する。  ○班長を呼び、活動内容を説明し班員に伝えさせる。 ○用具係を呼び、必要な道具を準備するように指示を出す。  <知識・理解①-2> ○必要があればフォームチェックを行っているペアに助言する。
まとめ 12分	5 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○次回の目標(step2)を考える。 ○体調確認をする。 6 次回の確認・挨拶	○今日学んだこと、記録を各班で振り返る。 <<知識・理解①-2>>【学習カード】 ○カードに記入する。 ○step1の目標を達成した人がいるか聞く。 ○協力して活動できていた班を紹介する。 ○カードを各班提出して解散させる。

(11) 11/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<技能②>クロスステップ時にジャベリックを後方に引くことができる。

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 12分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 班活動（目標の確認） 4 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ（班ごと）	○本時の流れがわかるように提示する。 ○前回立てた目標値（step2）と本時のチーム合計目標を班ごとに確認させる。
なか 26分	<b>【学習内容】&lt;技能②&gt;</b> ジャベリックを耳横の位置に保持したまま助走し、助走で得た勢いをジャベリックに伝えて投げること。	
	5 班別練習・計測	
	<b>【発問】</b> ジャベリックを後方に引くのはいつでしょうか？	
<b>【予想される答え】</b> 投げる直前      助走の勢いがついたら		
	○役割に応じて準備する。  ○各活動場所で、練習と補助の順番を決める。投げる側はピブスを着用する。 ○フォームチェックシートを使いながら練習と計測を行う。 ○助走時にジャベリックを耳横に保持することによってしっかり助走をできることを知る。 ○クロスステップの開始時にジャベリックを後方に引くことで助走の勢いを伝えて投げられることを知る。	<b>&lt;技能&gt;</b> ○全体で活動場所、安全上の注意を確認した後、今日の技能のポイントを、見本を示しながら説明する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャベリックの耳横の位置に保持</li> <li>・ジャベリックを引くタイミングはクロスステップをした時</li> </ul> ○班長を呼び、活動内容を説明し班員に伝えさせる。 ○用具係を呼び、必要な道具を準備するように指示を出す。 ○安全係を呼び、各活動場所で2人同時に投げないこと、投げる側と計測側で声を掛け合っていることを伝える。
まとめ 12分	6 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○次回の目標（step3）を考える。 ○体調確認をする。 7 次回の確認・挨拶	○今日学んだこと、記録を各班で振り返る。 ○カードに記入する。 ○ペアの目標が達成できたかどうか聞く。 ○協力して活動できていた班を紹介する。 ○カードを各班提出して解散させる。

(12) 12/14 時間の展開

ア 本時のねらい

＜技能②＞正しい投げだしの角度で投げることができる。

イ 本時の評価

＜技能②＞助走で得た勢いを投げの動作に移すことができる。【観察】【記録】（指導：8/14）

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
は じ め 12 分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 班活動（目標値の確認） 4 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ（班ごと）	○本時の流れがわかるように提示する。 ○前回立てた目標値（step3）とペア（専属コーチ）に見てほしい所（自分の課題）を学習カードに記入させる。 ○チーム目標を班ごとに確認する。
な か 26 分	【学習内容】＜技能②＞ ジャベリックを耳横の位置に保持したまま助走し、助走で得た勢いをジャベリックに伝えて投げること。	
	5 班別練習・計測	
	【発問】 ジャベリックを遠くに投げるために適した角度は？	
	【予想される答え】 45°    60°    30°	
	○役割に応じて準備する。  ○各活動場所で、練習と補助の順番を決める。投げる側はピブスを着用する。 ○フォームチェックシートを使いながら練習と計測を行う。 ○投げる時のジャベリックの飛び出す角度が 30° だとより遠くに投げられることを知る。	≪技能②≫【観察】【記録】 ○全体で活動場所、安全上の注意を確認した後、今日の技能のポイントを、見本を示しフォームチェックカードの使い方も合わせて説明する。 ・ジャベリックを投げる時の角度  ○班長を呼び、活動内容を説明し班員に伝えさせる。 ○用具係を呼び、必要な道具を準備するように指示を出す。 ○安全係を呼び、各活動場所で2人同時に投げないこと、投げる側と計測側で声を掛け合っていることを伝える。  ○自分の課題をしっかりとペア（専属コーチ）に伝えるように指示を出す。また、ペア（専属コーチ）は、それに対してアドバイスをするように伝える。 ○必要があればフォームチェックを行っているペアに助言する。
ま と め 12 分	6 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○次回の目標（step4）を考える。 ○体調確認をする。 7 次回の確認・挨拶	○今日学んだこと、記録を各班で振り返る。 ○カードに記入する。 ○ペアの目標が達成できたかどうか聞く。 ○協力して活動できていた班を紹介する。 ○カードを各班提出して解散させる。

(13) 13/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<技能②>助走で得た勢いを投げの動作に移すことができる。

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 12分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 班活動（目標値の訂正・確認） 今までの記録を元に、target 目標を必要があれば 班で話し合い訂正・確認する。 4 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ（班ごと）	○本時の流れがわかるように提示する。 ○前回立てた目標値（step4）とペア（専属コ ーチ）に見てほしい所（自分の課題）を学習 カードに記入させる。 ○班で話し合いを行い target 目標の修正・確 認を行わせる。
なか 26分	【学習内容】<技能②> ジャベリックを耳横の位置に保持したまま助走し、助走で得た勢いをジャベリックに伝えて投げること。	
	5 班別練習・計測	
	【発問】 ベスト記録を出すためにもっとも意識することは？	
	【予想される答え】 角度 助走 ジャベリックの向き	
	○役割に応じて準備する。  ○各活動場所で、練習と補助の順番を決める。投げる 側はピブスを着用する。 ○フォームチェックシートを使いながら練習と計測 を行う。 ○助走の距離（歩数）が安定してくると、ファールが 少なくなり安定して投げられるようになることを 知る。	<技能> ○全体で活動場所、安全上の注意を伝える。 ○助走を何歩で行っているか、人によって適し た距離があることを伝えて助走を意識させ る。  ○班長を呼び、活動内容を説明し班員に伝えさ せる。 ○用具係を呼び、必要な道具を準備するように 指示を出す。 ○安全係を呼び、各活動場所で2人同時に投げ ないこと、投げる側と計測側で声を掛け合っ て行うことを伝える。  ○自分の課題をしっかりとペア（専属コーチ）に 伝えるように指示を出す。また、ペア（専属 コーチ）は、それに対してアドバイスをす るように伝える。 ○必要があればフォームチェックを行っている ペアに助言する。
まとめ 12分	6 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○班の target 目標に対してどうだったか確認する。 ○体調確認をする。 7 次回の確認・挨拶	○今日学んだこと、記録を各班で振り返る。 ○カードに記入する。 ○班の目標が達成できたかどうか聞く。 ○協力して活動できていた班を紹介する。 ○次回は視聴覚室で振り返りを行うことを確認 し解散させる。

(14) 14/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<思考・判断>学習成果を踏まえて、自己に適した関わり方を見付けたり、気づいたりすることができるようにする。

<関心・意欲・態度>勝敗などを冷静に受け止め、記録を学習に取り組んできた過程と関連付け、結果を肯定的に受け止められるようにする。

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ5分	1 集合・挨拶・出席確認 2 本時の説明	○本時はジャベリックの振り返りと陸上競技全体の振り返りを行うことを伝える。
なか30分	3 班活動 ○個人記録と班記録の振り返りを行い、学習カードに記入する。 ・ためし記録との比較 ・ベスト記録と目標値の比較 ・target 目標達成度 ・target 目標達成率 ・一人当たりの平均距離  4 記録結果発表 ○計算した記録がどうだったのか発表を聞く。  5 解散セレモニー ○陸上競技の授業を行ってみて感じた事を話し合う。 ○話し合った内容をまとめて班長が発表する。	○机間巡視を行い、記録の計算が正しくできているか確認し、必要があれば助言する。  ○項目ごとに上位3班を発表する。
まとめ10分	6 本時のまとめ ○陸上競技の授業全体の学習を振り返る。 7 挨拶	○陸上競技の授業全体に対しての振り返りを行う。特に良かったところを伝える。

## 7 検証授業の結果と考察

検証授業で得られたデータを基に、本授業で重点的に指導した、「協力」「参画」「共生」を涵養することができたかを検証する。

本研究の単元の前後に、学習指導要領実施状況調査における中学校調査、生徒質問紙調査の態度の質問を中心にアンケートを生徒に実施した。中学校調査の質問を利用した理由は、検証授業を実施時期には、高等学校の調査結果及び質問項目が公表されていなかったためである。そのアンケート中における、「学びに向かう力、人間性等」の「協力」「参画」「共生」の質問が表 10 である。

なお、「共生」の項目は、現行の学習指導要領には含まれていないため、新学習指導要領の記載から筆者が作成した。この質問の肯定的な回答の結果から、本授業で「学びに向かう力、人間性等」を涵養することができたかを検証する。

**表 10 事前・事後アンケートにおける「協力」「参画」「共生」の質問**

No.	質問	内容
1	体育の学習では、仲間の記録を計るなど学習を補助したり、技術の行い方などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようとしていますか。	協力
2	体育の学習では、グループでの話し合いの必要性が生じた場合、チームなどの課題の解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとしていますか。	参画
3	体育の学習で、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、人には違いがあることに気付き、互いを認めようとしていますか。	共生
4	体育の学習で、人には違いがあることに気付き、みんなが楽しめるように調整をしようとしていますか。	共生

### (1) 事後アンケートの結果から

表 11 は事後アンケートの「協力」「参画」「共生」の質問に対する肯定的な回答の結果の割合を示したものである。事後アンケートの実施時に欠席をした生徒と無回答のものは除いた。各質問に対する肯定的な回答者の比率を評価するために、表 12 (p. 39) の国立教育政策研究所が実施した学習指導要領実施状況調査の評価基準のⅡ型<sup>25)</sup>の基準を適用した。その結果、質問すべてにおいて肯定的な回答をした生徒の割合が 78%を越え。今回の授業では、相当数の生徒が、「協力」「参画」「共生」を涵養することができたと言える。

**表 11 事後アンケートの「学びに向かう力、人間性等」質問結果**

	1 協力	2 参画	3 共生	4 共生
肯定的回答	87.4%	78.6%	83.9%	83.9%
否定的回答	10.8%	17.9%	8.9%	9.8%
その他	1.8%	3.6%	7.1%	6.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
n 数	111	112	112	112



表 12 学習指導要領実施状況調査の評価基準のⅡ型<sup>25)</sup>

問題区分	相当数の生徒 ができています		課題があると 考えられる
基礎的・基本的な知識・技能の 習得を主として問う問題（Ⅰ 型）	通過率 80%以上	通過率 60%以上 80%未満	通過率 60%未満
基礎的・基本的な知識・技能を 活用した思考力・判断力・表現 力等を主として問う問題（Ⅱ 型）	通過率 70%以上	通過率 50%以上 70%未満	通過率 50%未満
Ⅰ型・Ⅱ型のうち特に高度な 問題（Ⅲ型）	通過率 60%以上	通過率 40%以上 60%未満	通過率 40%未満

(2) 事前アンケートと事後アンケートの比較

単元前後の「学びに向かう力、人間性等」の質問の肯定的な回答の割合の変化を図 17 で示した。すべての質問で肯定的な回答の割合が増加したことがわかる。また、単元前後の各質問の回答の平均点について、対応のある t 検定を実施した。その際、質問単位で単元前後で回答者数を合わせた。その結果、有意差の出た質問が表 13 であり、「協力」の項目で平均点が向上した。

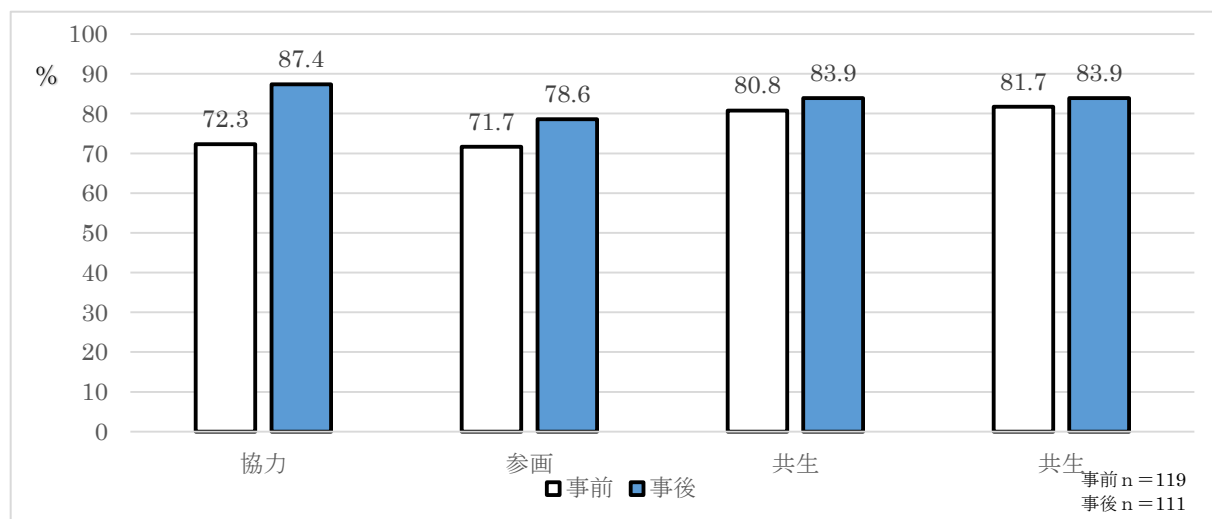


図 17 事前・事後の肯定的な回答の割合の変化

表 13 事前・事後で有意差がみられた質問

No.	有意差がみられた質問	肯定的 回答率	内容
1	体育の学習では、仲間の記録を計るなど学習を補助したり、技術の行い方などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようとしていますか。	87.4%	協力

(3) 検証の視点のまとめ

事後アンケートの結果から、本単元を通して、相当数の生徒が「協力」「参画」「共生」を涵養することができたと言え、成果を見ることができた。特に、「協力」については、事前と事後のアンケートの結果比較から、平均点の向上に有意差がみられ、顕著に成果がみられた項目と言える。

## 第4章 検証授業のまとめ

### 1 検証授業の成果

#### (1) 検証の視点からわかったこと

本研究は高等学校において、「協力」「参画」「共生」を指導する体育の授業実践を通して、「学びに向かう力、人間性等」を涵養する授業づくりを提案することを目的とし、協同学習の構成要素を取り入れて、「学びに向かう力、人間性等」を涵養する授業を目指した。検証授業の主な成果は、次のとおりである。

#### 検証授業の成果

- ・重点的に指導をした「協力」「参画」「共生」において、相当数の生徒が涵養できたと言える状態になった。
- ・特に「協力」において、事前と事後で有意な差がみられ、成果が大きかった。

以上のことから、本研究が「学びに向かう力、人間性等」を涵養する授業として、成果を得ることができたと言える。しかしながら、本研究の学習の工夫が、どの項目に効果的であったか等については、明らかにすることができず、今後の研究に期待したい。

#### (2) 検証の視点以外でわかったこと

##### ア 「協力」「参画」「共生」以外の指導事項の成果

検証の視点で取り上げた、「協力」「参画」「共生」以外の指導事項においても、検証授業の事前と事後で同様のアンケートを実施し、表14はアンケートの質問内容を示したものである。

表14 事前・事後アンケートの「協力」「参画」「共生」以外の質問

No.	質問	内容
1	体育の学習では、自分自身やチームの課題を見付け、その課題を解決することに積極的に取り組もうとしていますか。	愛好的態度
2	体育の学習では、練習や試合などの場面でルールやマナーを守ろうとしていますか。	公正
3	体育の学習では、準備や片付けなど分担した役割を果たそうとしていますか。	責任
5	体育の学習では、自分や仲間の安全に気を配って、活動に取り組んでいますか。	安全

##### (ア) 事後アンケートの結果から

表15は事後アンケートの「協力」「参画」「共生」以外の質問に対する肯定的な回答の結果の割合を示したものである。検証の視点と同じ評価方法を適用し、その結果、質問すべてにおいて肯定的な回答をした生徒の割合が86%を超えた。今回の授業では、相当数の生徒が、「協力」「参画」「共生」以外の指導事項についても、涵養することができたと言える。

表15 事後アンケートの「学びに向かう力、人間性等」質問結果

	1 愛好的	2 公正	3 責任	5 安全
肯定的回答	86.6%	95.5%	94.6%	90.2%
否定的回答	11.6%	4.5%	5.4%	7.1%
その他	1.8%	0.0%	0.0%	2.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(イ) 事前アンケートと事後アンケートの比較

単元前後の「協力」「参画」「共生」以外の質問の肯定的な回答の割合の変化を図 18 で示した。すべての質問で肯定的な回答の割合が増加したことがわかる。また、単元前後の各質問の回答の平均点について、対応のある t 検定を実施した。その際、質問単位で単元前後で回答者数を合わせた。その結果、有意差の出た質問が表 16 である。「愛好的態度」「責任」で平均点が向上した。「責任」については、「参画」するスキルの育成のために指導した結果がこのような結果につながったと考える。愛好的な態度については、生徒が授業を肯定的に捉えたことを示唆するものであると考える。

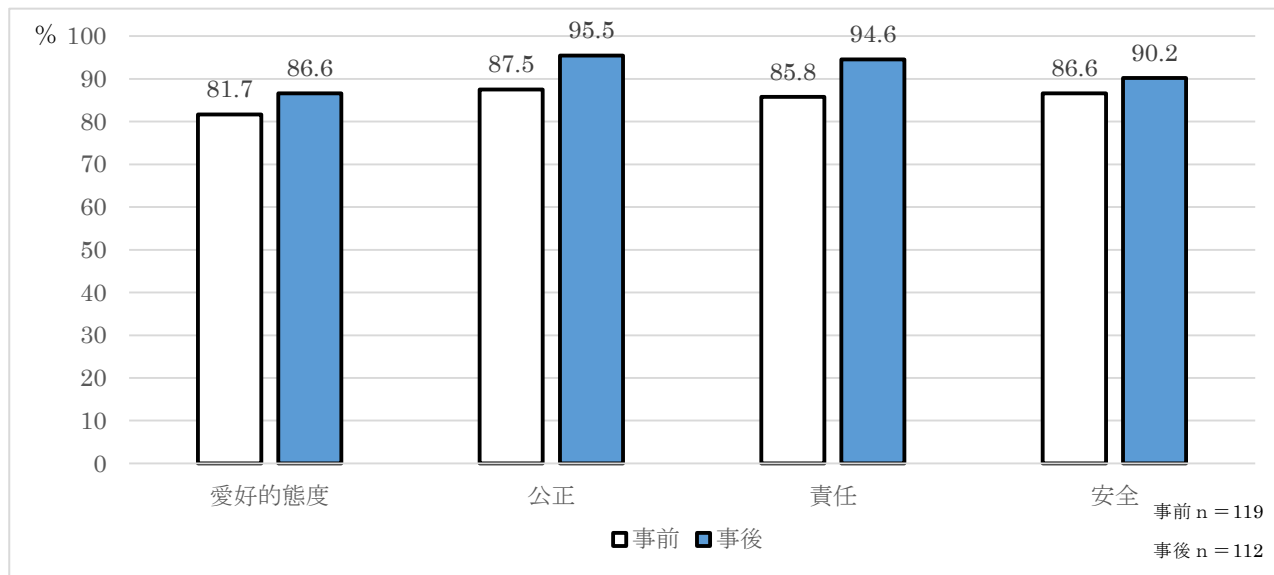


図 18 事前・事後の肯定的な回答の割合の変化

表 16 事前・事後で有意差がみられた質問

No.	有意差がみられた質問	肯定的回答率	内容
1	体育の学習では、自分自身やチームの課題を見付け、その課題を解決することに積極的に取り組もうとしていますか。	86.6%	愛好的態度
3	体育の学習では、準備や片付けなど分担した役割を果たそうとしていますか。	94.6%	責任

イ 「技能」の習得

本研究の「協力」の指導の中で「自分も仲間も記録の向上」という、技能の向上の要素を組み込み各指導を行った。表 17 はジャベリックスローの 1 時間目の試しの測定の合計と単元最後の記録会の記録（天候により実施できなかったクラスは単元の中のベスト記録）の合計を示したものであり、1.34 倍の記録の向上がみられた。また、事後のアンケートの「『人からアドバイスを受けること』は自分の記録の向上に役立つと思いましたか」の質問に 92.8% の生徒が肯定的な回答をした。このことは、お互いにアドバイスをし合う活動が、技能の習得にも効果的であったことを示唆する内容である。

表 17 ジャベリックスローにおける技能の向上 n = 123

試しの測定の平均	記録会・ベスト記録平均	向上率
15.87m	21.31m	134%

## ウ 「思考力・判断力・表現力」の育成

事前・事後のアンケートの中で、「学びに向かう力、人間性等」の質問の他に「思考・判断」の質問についても回答を求めた。その結果から、思考・判断の項目においても、事前と事後のアンケートの比較で有意な差が見られた項目がある。表 18 は、「思考力・判断力・表現力」の質問で有意差がみられた項目である。本研究の授業は、「学びに向かう力、人間性等」の涵養だけでなく、「思考力・判断力・表現力」の育成にも成果がみられた。

表 18 「思考・判断」の質問で有意差がみられた項目

No.	有意差がみられた質問	肯定的回答率
1	仲間と学習する場面で、仲間のよい動きを指摘することができますか	83.0%

## エ 検証の視点以外でわかったことのまとめ

以上のことから、本研究で重点的に指導をした項目以外の「学びに向かう力、人間性等」の涵養についても成果が得られた。また、「学びに向かう力、人間性等」の涵養のみならず、「知識及び技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」の育成についても、成果がみられた。

## 2 学習指導の振り返り

### (1) 「協力」の指導について

本研究では「協力」をする機会を与えるだけでなく、協力するスキルを指導することを目指した。生徒は単元の前半で、アドバイスができなかった理由に「まだ仲がよくないから」など、人間関係に関する要素を挙げることもあり、アドバイスを生む活動やスキルだけでなく、アイスブレイクやグループの人間関係の構築についても、教師のアプローチが必要だと考える。単元が進むにつれて、協力するスキルが醸成され人間関係の構築とともに、教え合いの活動も徐々に増えていった。単元前半の活動では、アドバイスができる生徒とできない生徒がグループの中で混在していたが、「専属コーチ制度」によって必ずアドバイスをする機会が生まれ、多くの生徒がアドバイスを行えるようになった。

学習カードの記載や振り返りの時間で、生徒が上手に活動ができているかを教師は確認することができ、指導の改善に役立てることができた。また、「知識」がなければ人にアドバイスをを行うことはできない。教師が技能のポイントを伝え、また、フォームチェックシートや角度チェックシートなどで「知識」をわかりやすく示すことで、アドバイスの基となる「知識」を与えたことで、アドバイスをする活動が活性化された。

### (2) 参画の指導について

参画については、「グループの目標を達成することを目指した活動」を行うことが、参画を促す重要な要素であった。「自分も仲間も記録を向上する」ことを目的として、グループ活動することを生徒が理解し、自己の記録の向上だけに活動することがないような手立てが必要である。活動の中では「話す、聞く、関わり合い」を通して、合意形成をすることを目指した。はじめは、相手の話に返事をするともなく、自分の役割を担っていることが多かったが、「グループの話し合いで学習活動を決定する」ことや「話し合いで個人の目標値を設定する」活動をしていく中で、少しずつ会話や合意形成を目指す姿が見られた。「話し合いで個人の目標値を設定する」活動では、自分の調子を話した上で、相手の目標値の変更を提案するような姿も見られた。

### (3) 共生の指導について

共生については、「肯定的な言葉かけ」を通して、相手を認めたり、称えたりすることを目指した。単元前半では、アドバイスの活動をする中で、相手を批判したり、厳しく指摘する姿が見られた。また、アドバイスの活動をする中で、アドバイスは技能の高い生徒が、技能の低い生徒にするものであるように理解している生徒もいることから、「肯定的な言葉かけ」を通して、技能差などに関係なく、相手にアドバイスをすることができることを示すことも重要だと考える。また、教師が意図的に「肯定的な言葉かけ」を通して、生徒を称賛することで、生徒に人を認めるモデルを示し、「肯定的な言葉かけ」を生徒が積極的に行えるような環境を整えることも有効だと考える。

## 第5章 授業の提案

### 1 学習指導計画（新学習指導要領に即した本研究用に作成）

#### （1）単元の目標（その次の年次以降）

- ア 次の運動について、記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。
- ・走り幅跳びでは、スピードに乗った助走と力強い踏み切りから着地までの動きを滑らかにして跳ぶこと、
  - ・やり投げでは、短い助走からやりを前方にまっすぐ投げること。
- イ 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- ウ 陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保すること。

(2)「陸上」領域における単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技では、各種目の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的な練習の仕方があることについて、言ったり書きだしたりしている。</li> <li>陸上競技の運動種目によって必要な体力要素があり、その運動種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書きだしたりしている。</li> <li>課題解決の方法には、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、記録会などを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、学習した具体例を挙げている。</li> <li>競技会や記録会で、競技のルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。</li> </ul>	<p>○技能</p> <p><b>【走り幅跳び】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加速に十分な距離から、高いスピードで踏み切りに移ることができる。</li> <li>タイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ることができる。</li> </ul> <p><b>【やり投げ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>助走で得た勢いを投げの動作に移すことができる。</li> <li>投げの動作では、投げる側の腕を大きく振ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した運動種目について、自己や仲間の動きを分析して良い点や修正点を指摘している。</li> <li>課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。</li> <li>自己や仲間の課題を解決するための練習の計画を立てることができる。</li> <li>練習や競技会の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。</li> <li>練習や競技会の場面で、自己や仲間の活動を振り返り、よりよいルールやマナーについて提案することができる。</li> <li>体力や技能の程度、性別等の違いを超えて仲間とともに陸上競技を楽しむための調整の仕方を見付けている。</li> <li>陸上競技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技の学習に主体的に取り組もうとすること。</li> <li>勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</li> <li>役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</li> <li>危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。</li> </ul>

※技能については、走り幅跳びとやり投げのみ記載

(3) 当該單元における評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①競技会や記録会で、競技のルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 【走り幅跳び】 ①タイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ることができる。  【やり投げ】 ②短い助走からやりを前方にまっすぐ投げることができる。	①選択した運動種目について、自己や仲間の動きを分析して良い点や修正点を指摘している。  ②体力や技能の程度、性別等の違いを超えて仲間とともに陸上競技を楽しむための調整の仕方を見付けている。	①仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い、高め合おうとしている。  ②課題解決に向けて話し合う場面で合意形成に貢献しようとしている。  ③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。
【学習カード】	【観察】【記録】	【観察】【学習カード】	【観察】【学習カード】

※主体的に学習に取り組む態度の評価の見取りは「観察」であるが、本研究では観察を効果的、効率的に行うために学習カードの記載を確認した。

(4) 具体的な指導内容

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
①グループの役割や記録会の運営から全員が楽しむためのルールや調整の仕方があること。	【走り幅跳び】 ①助走の距離を一定にして、タイミングよく踏切ること。  【やり投げ】 ②クロスステップからターボジャブの穂先の向きを意識して投げること。	①提示された動きのポイント等を参考に、仲間の課題や出来ばえを伝えること。  ②仲間の目標や課題を踏まえた活動の選択や助言の仕方を見付けること。	①相手の課題に応じた、アドバイスの仕方やアドバイスの受け方があること。  ②グループ内の話し合いの場面で、合意形成のために相手の話を聞いたり、自分の意見を言うことが重要であること。  ③一人一人、目標や課題に違いがあることに気づき、相手の目標や課題に応じたアドバイスがあること。



(5) 単元の概要 (学びに向かう力、人間性等の指導を★印と太字で示した)

時間	1	2	3	4	5	6	7	
テーマ	跳躍 (走り幅跳び) 課題に対し、グループによる課題解決の活動 (協力・参画・共生) の仕方を学ぶ 本時の説明・課題の確認							
学習過程	10	本単元の学習説明準備運動	個人目標設定	グループミーティング (★アドバイスの仕方)	準備運動			記録会 (★応援のマナー)
		★役割分担の決定	準備運動	技能のポイント提示	★アドバイスの仕方	★グループ練習 (グループで練習を見合う活動)		
	20	動きづくり	準備運動	課題② ★グループ練習 (グループで練習を見合う活動)	踏切のリズム	着地練習		
			課題①グループ練習		★グループ練習 (グループの話し合いで学習活動を決定する) (グループで練習を見合う活動) 計測			
	30	試しの計測	課題②グループ練習					
			スピードを落とさず踏み切る練習					
40	整理運動 片付け 本時のまとめ 次回の確認 (生徒に対する称賛)							
50								
指導評価時期	知識及び技能 (知識・技能)		①				①●	
	思考力判断力表現力等 (思考・判断・表現)					①●		
	学びに向かう力、人間性等 (主体的に学習に取り組む態度)			①	②			

※指導評価時期の ( ) 内は評価の観点、○数字は指導時期、●数字は評価時期を示す。

時間	8	9	10	11	12	13	14
テーマ	投てき（やり投げ） グループごとに目標と課題を設定し、課題解決と目標達成を目指してよりよいグループ活動に取り組む。						
学習過程	10	小単元の学習説明準備運動	本時の説明課題の確認	小単元の学習の説明 （★個人の目標値の設定） 準備運動			本時の説明課題の確認
			走り幅跳び振り返り				
	20	握り方構え方	技能のポイント（動画）	技能のポイントの説明			記録会 （★応援のマナー）
		突き刺し立ち投げ 一歩助走クロスステップ					
	30	試しの計測	★グループ目標 アドバイスの約束決め	グループ練習と計測 （★専属コーチによるアドバイス）			
40	整理運動 片付け 本時のまとめ 次回の確認	本時のまとめ 次回の確認	整理運動 片付け 本時のまとめ次回の確認 （★教師による称賛）				
50							
指導評価時期	知識及び技能 （知識・技能）		②			②	
	思考力判断力表現力等 （思考・判断・表現）			②②			
	学びに向かう力、人間性等 （主体的に学習に取り組む態度）		③			①③	②

※指導評価時期の（ ）内は評価の観点、○数字は指導時期、●数字は評価時期を示す。

## 2 授業案

検証授業の授業案を新学習指導要領に対応する授業案に修正し、作成した。

### (1) 1/14 時間の展開

#### ア 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 15分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 単元の流れ 3 本時の説明 4 準備運動 ○ランニング ○2人組ストレッチ	○全体の流れと、記録を伸ばすために工夫をすることと、誰かのために自分が手助けすることをを行う授業であることを伝える。 ○自分がどのくらいの助走距離をとったらいいか、目安となる12歩の距離を測り、そのあとに短い助走からの走り幅跳びを計測するという授業の流れを伝える。 ○準備運動は教員が指示して全体で行う。
なか 25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習内容】&lt;技能①&gt; 自分に適した助走距離を知り、短い助走から踏み切って跳んだ距離を計測する。</p> </div>	
	5 助走距離を決める<技能①> ○30mを全力で走り、スタートから12歩の距離を計測する。 ○ペアで見合い、スタートから12歩のところにマークする。  6 試しの測定	○12歩の距離を目安とし、今後の授業で調節することを伝える。 ○ここでは、全力で30m走るように指示する。 ○ペアで見合い、12歩目にマークするように指示する。 ○実施者と補助者が交錯しないようお互いに声をかけ、走る前に走路を確認し合うよう注意する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問】 遠くに跳ぶために、助走は自分の全速力を考えて、どのくらいのスピードがいいか？</p> </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される答え】 踏切に合わせるために、ほどほどのスピード      全速力   速く</p> </div>	
	○短い距離でトップスピードになり、踏み切るときは、しっかりと踏み切ることができるスピードになるように調節することを学ぶ。 ○①砂場をならす人②メジャーを読む人③踏切が正しく行われているか判定する人④跳ぶ人にわかれて計測する。必ず一人1回計測。 ○踏切板を踏み越えたらファールであること、踏切板に一番近い着地点と、踏切板を直角に結んだ距離を計測することを学ぶ。	○ファールになっても記録を残すよう指示する。  ○着地点にメジャーの0を合わせ、踏切版の砂場に近い方を直角に合わせ、数字を読み上げるように指示する。
まとめ 10分	7 整理運動・片づけ 8 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○体調確認をする。 9 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に分担して片付けるように促す。 ○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○学習カードにための計測の記録を確実に記入していることを確認する。

(2) 2/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<技能①>助走の距離を一定にして、タイミングよく踏切ることができるようにする。

(評価：6/14 時間)

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・挨拶・出席確認（視聴覚教室） 2 本時の説明	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。
なか 30分	3 個人の目標設定 ○記録カードに個人の目標を記入する。  4 グループ決定・役割分担 ○グループに分かれて自己紹介 ○役割を決定する。 5 グループ別に準備運動 ○ランニング ○ストレッチ 6 助走スタートから4歩のマークをする	○個人で目標を自由に設定するように指示する。  ○平均距離が同じになるように班分けをし、発表する。 ○各グループで自己紹介をするように指示する。 ○役割の仕事内容を書き出して提示する。 ○役割分担をすることを通じて自分の役割を見付けやすくする。 ○グループでまとまって活動するように指示をする。
	【学習内容】<技能①> 助走と踏切を合わせるために、助走の始めから4歩目までの距離をマークし、4歩目までを合わせて走り、助走スピードを落とさずに踏切のタイミングを合わせること。	
	【発問】 助走から踏切はぴったり合わなかった人はどのように合いませんでしたか？	
	【予想される答え】 ファールしてしまった 届かなかった ちょうどよかった	
	○助走と踏切を常に同じ歩数で走ることが助走のスピードを落とさずに踏み切るための一つのコツであること、同じ歩数で走るが、踏切が合わないのは、最初の4歩目までがずれやすいことを学ぶ。 ○30mを全力で走り、スタートから4歩の距離を計測する。 7 助走と踏切を合わせる<技能①> ○マークにスタートから4歩目が合うように助走する。 ○残りの助走路はスピードを落とさずに踏切線で踏み切る練習	○助走と踏切を合わせるために、常に同じ歩数で同じ距離を走る必要があるが、初めの4歩までがずれやすいので、それを合わせるためにマークすることを説明する。  ○スタートから4歩目の距離がわかったら、マークとスタートから4歩を合わせる練習に移るよう指示する。 ○スタートから4歩目以降の助走はスピードを落とさずに踏み切るように促す。 ○それでも合わないときに、どのくらい合わないのかを明確に自覚するように促す。
まとめ 10分	8 整理運動・片づけ 9 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○体調確認をする。 10 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に分担して片づけるように促す。 ○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○今日学んだことを全体で振り返るときにはノートに記入せずに話を聞くように注意する。 ○助走が合わなかった人は、次回調節して助走距離を決めなおすことを伝える。 ○学習カードをグループごとに記録係が回収して提出し解散させる。

**(3) 3/14 時間の展開**

ア 本時のねらい

<学びに向かう力、人間性等①>相手の課題に応じた、アドバイスの仕方やアドバイスの受け方があること。(評価：12/14 時間)

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 5分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。
なか 30分	3 グループミーティング  <学びに向かう力、人間性等①> アドバイスの仕方を学ぶ「肯定的な言葉かけの練習」  ○前回の活動までを振り返り、グループの仲間の良いところを伝え合う。  4 グループ別に準備運動 ○ランニング ○ストレッチ  5 助走開始から4歩目を合わせる	○これまでの授業で、課題やできていないところを指摘して伝えることはできるが、良いところを伝えることが不足していることから、うまくいったことを伝えることも同じくらい必要なことを説明する。 ○グループ別練習や教え合いをする際に良いところを伝えることの意義を実感させる。 ○生徒同士の心をほぐすように雰囲気をつくる。  ○グループでまとまって活動するように指示する。 ○安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
	【学習内容】<技能①> 走り幅跳びでは、タイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ること。そのためには助走のスピードを落とさずタイミングよく踏み切ること、助走のスピードを落とさないためには、助走が一定の歩数と距離で踏切まで行えることがコツの一つであること。	
	【発問】 どうやったら、助走の距離と歩数が一定になるだろうか？	
	【予想される答え】 初めから全速力で走る 練習でも全力で走る 助走距離を覚える 友達に見てもらって練習する スタートから4歩目までを一定距離でいけるように練習する 等	
	6 計測<技能①><学びに向かう力、人間性等①> ○スタートから4歩目をしっかり合わせたり、調整した助走距離や助走のスタートの踏み出しを左右どちらにするかなど工夫したりして計測に臨む。	○スタートから4歩目が常に合うようにペアで見合って練習するように促す。 ○残りは8歩程度になるはずなので、残りは全力で走り切ったときに踏切線まで常に同じ歩数でたどり着いているかペアで見合うよう指示する。 ○合わないときは助走距離を伸ばしたり、縮めたり、スタートの足を左右変えてみたり工夫するように指導する。
まとめ 15分	7 整理運動・片づけ 8 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○体調確認をする。 9 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に分担して片づけるように促す。 ○助走の距離と歩数の調整結果を学習カードに記入するよう促す。 ○学び合いについては、生徒が取り組んだことに気付くことができるよう、実際の例を挙げ、声をかける。 ○学習カードをグループごとに記録係が回収して提出し解散させる。

(4) 4/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<学びに向かう力、人間性等②>グループ内の話し合いの場面で、合意形成のために相手の話を聞いたり、自分の意見を言うことが重要であること (評価 12/14 時間)

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。 ○グループで活動するので、その際はグループ内で練習の補助をし合うことや、他のグループとも練習場所を融通して行うことが必要なことを説明する。 ○グループでまとまって準備運動を行うように声をかける。 ○安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
なか 30分	4 ミニハードルで踏切の動きづくり 【学習内容】 <技能①>踏切のリズムを覚える	
	【発問】 助走で力強く踏み切るために、踏切を合わせるときに、上手な人はどのようにしていると思いますか？	
	【予想される答え】 常に同じ歩幅にしている 最後までスピードが落ちない 最後少し歩幅が小さくなっている	
	○踏切足のキックを強調してミニハードルを 1 歩で越える。 ○ミニハードルを越えるときに、だんだんと両腕・両肩、振り上げ足を高く上げる。 ○両腕・両肩、振り上げ足が高く上がるようになり、ジャンプが大きく、高くなってきたら両足で着地をする。 <技能①> 5 グループ別練習<学びに向かう力、人間性等②> ○グループで話し合い、①～③から、重点的に行いたい練習を選んで取り組む。 ①スタートから4歩目のマークに足を合わせる練習 ②スタートから4歩目のマーク以降スピードを落とさずに踏み切る練習 ③ミニハードルで踏切の動きづくり ○練習場所の安全を確保して取り組む。	○「タ・ターン」のリズムでハードルを越えるように指導する。 ○リズムが良くなって来たら、両腕・肩の引き上げで振り上げ足を高く上げるように指示する。 ○ジャンプが高くなると片足で着地することが難しくなることから、両足着地にするとともに、走り幅跳びの動きにつながるように指示する。 ○グループごとにどの練習がいいか意見交換して合意形成の上、グループで選ぶように指示する。 ○グループ単位で動くように指示する。 ○途中で別の練習に切り替えるときは、他のグループとも調整して交代しながら行うように指示する。 ○安全係を中心に、練習場所の安全を確保して行うように注意する。 ○練習者と、練習補助者がお互いに声を掛け合って行うように促す。 ○巡回して、つまずきのある生徒に助言する。
まとめ 10分	6 整理運動・片づけ 7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習ノートの記入をする。 ○体調確認をする。 8 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に、活動場所の用具を片付けるように促す。 ○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○学び合いについては、生徒が取り組んだことに気付くことができるよう、実際の例を挙げ、声をかける。 ○ノートをグループごとに記録係が回収して提出し解散させる。

(5) 5/14 時間の展開

ア 本時のねらい

＜思考・判断・表現①＞提示された動きのポイント等を参考に仲間の課題や出来ばえを伝えている。(評価 5/14 時間)

イ 本時の評価

＜思考・判断・表現①＞提示された動きのポイント等を参考に仲間の課題や出来ばえを伝えている。【学習カード・観察】

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する ○グループで活動するので、その際はグループ内で練習の補助をし合うことや、他のグループとも練習場所を融通して行うことが必要なことを説明する。 ○グループでまとまって準備運動を行うように声をかける。 ○安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
なか 30分	4 着地姿勢の確認 【学習内容】＜技能①＞安全に、距離を伸ばすための跳び出しの角度と着地姿勢を確認する。 ○けがをしないように安全な着地の仕方を確認する。 ○写真の着地姿勢を見比べて、グループの仲間同士アドバイスし合うことを知る。	○具体的な着地姿勢の写真を用いて説明する。 ○跳び出す角度の図も提示する。 ○砂場で練習する際に着地姿勢をお互いにチェックしながら行う。
	5 アドバイスの仕方＜思考・判断・表現①＞ 【学習内容】互いに助け合い高め合おうとすること。できない点や失敗した点ばかりを指摘するのではなく、良くなった点を指摘すること。 ○アドバイスは次の観点について指摘し合うことを学ぶ。 ◆跳び出す角度 ◆踏切位置 ◆助走のスピード◆踏切のリズム・力強さ ○良い点を多く指摘することを学ぶ。	○アドバイスする際には、課題となる点だけでなく、「前と比べて」よくなった点について指摘するように指導する。 ○アドバイスする人はうまくできたところを多く見つけるようにすることを促す。 ○どの練習がいいか意見交換して合意形成の上、選ぶように指示する。 ○グループ単位で動くように指示する。 ○途中で別の練習に切り替えるときは、他のグループとも調整して交代しながら行うように指示する。 ○安全係を中心に、練習場所の安全を確保して行うように注意する。 ○練習者と、練習補助者がお互いに声を掛け合って行うように促す。 ○巡回して、つまずきのある生徒に助言する。 ≪思考・判断・表現①≫【観察・学習カード】
まとめ 10分	8 整理運動・片づけ 9 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○体調確認をする。 10 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に、活動場所の用具を片付けるように促す。 ○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○学び合いについては、生徒が取り組んだことに気付くことができるよう、実際の例を挙げ、声をかける。 ○特に、良い活動をしていたところを全体で紹介する。 ○学習カードをグループごとに記録係が回収して提出し解散させる。

**(6) 6/14 時間の展開**

ア 本時の評価

《技能①》助走の距離を一定にして、タイミングよく踏切ることができるようにする走のスピードを落とさずに踏切をリズムよく行う。(指導 2 /14 時間)

【観察】【記録】

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明  3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する ○アドバイスする際には、課題となる点だけでなく、次の観点を「前と比べて」よくなった点について指摘するように確認する。 ◆ 跳び出す角度 ◆ 踏切位置 ◆ 助走のスピード ◆ 踏切のリズム・力強さ ○グループでまとめて準備運動を行うように声をかける。 ○安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
なか 30分	【学習内容】<技能①> 記録会に向けてベスト記録の更新を目指す活動を通してタイミングよく腕・肩を引き上げ、力強く踏み切ること。  4 グループ練習<技能①> ○グループで話し合い、①～③から、重点的に行いたい練習を選んで取り組む。 ①スタートから4歩目のマークに足を合わせる練習 ②スタートから4歩目のマーク以降スピードを落とさずに踏み切る練習 ③ミニハードルで踏切の動きづくり ○練習場所の安全を確保して取り組む。 ○練習場所を交代しながら、記録を測定できるときは記録を残す。	<技能①>【観察】【記録】 ○グループごとにどの練習がいいか意見交換して合意形成の上、グループで選ぶように指示する。 ○グループ単位で動くように指示する。 ○途中で別の練習に切り替えるときは、他のグループとも調整して交代しながら行うように指示する。 ○安全係を中心に、練習場所の安全を確保して行うように注意する。 ○練習者と、練習補助者がお互いに声を掛け合って行うように促す。
まとめ 10分	5 整理運動・片づけ 6 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○体調確認をする。  7 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に、活動場所の用具を片付けさせる。 ○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○学び合いについては、生徒が取り組んだことに気付くことができるよう、実際の例を挙げ、声をかける。 ○特に、良い活動や学び合いをしていたところを全体に紹介する。 ○学習カードをグループごとに記録係が回収して提出し解散させる。



(7) 7/14 時間の展開

ア 本時のねらい

<知識①> グループの役割や記録会の運営から全員が楽しむためのルールや調整の仕方があることについて学習した具体例を挙げている。(評価 7/14 時間)

イ 本時の評価

<<知識①>> グループの役割や記録会の運営から全員が楽しむためのルールや調整の仕方があることについて学習した具体例を挙げている。(指導 7/14 時間)

【学習カード】

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10 分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明  3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ	○本時の流れがわかるようにホワイトボードを使用して提示する。 ○記録会は、試技、記録係、応援、準備をそれぞれグループの単位でローテーションして行うことを説明する。 ○応援のマナーや約束事を確認し、自分の記録を伸ばすことに挑戦したり、競い合ったりする楽しさを味わえるようにする。  ○グループでまとまって準備運動や準備を行うように声をかける。 ○安全係がリーダーシップをとって準備運動を行うように促す。
なか 30 分	【学習内容】<共生> 記録会ではそれぞれの課題や挑戦に応じた応援などのマナーがあること。  4 グループ練習<知識①> ○記録会に向けた練習や準備をグループごとに行う。  5 記録会<共生> ○試技は2回 ○グループの中で1回ずつ全員が試技を終了したら、2回目の試技を行う。 ○グループごとに①試技②応援③記録④試技の準備にわかれて記録会を運営する。 ○応援は、失敗してもけなさないこと、よい跳躍には拍手で称賛を示すことなどを守る。 ○記録係はグループの中で「砂場ならし」「ファウルの判定」「メジャーで測定」「記録記入」を分担する。	○イベントの要素を打ち出し、記録会の雰囲気を出す。  ○ファウルであっても参考記録として記録を残す。 ○試技者と、記録係がお互いに声を掛け合っているように促す。 ○応援も含め、それぞれの役割に責任をもって取り組むように指導する。 ○記録係は計測の結果を確実に記録カードに記入することを指示する。 <<知識①>> 【学習カード】
まとめ 10 分	6 整理運動・片づけ 7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○体調確認をする。  8 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に、活動場所の用具を片付けさせる。 ○ケガ、体調不良等の確認をする。 ○特に、良い活動や学び合いをしていたところを全体に紹介する。  ○次回から投てきになることを指示する。

(8) 8/14 時間の展開

展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ（グループごと）	○今日から2種目目のジャベリックスローを行うことを伝える。合わせて記録会までの大きな流れも説明する。 ○今日は、練習を少し行った後に試しの測定をすることを説明する。
なか 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【学習内容】&lt;技能②&gt; 助走で得た勢いを投げの動作に移すことができる。</p> </div> 4 ジャベリックスロー練習<技能②> ○ターボジャブの持ち方・投げ方を確認する。  ○練習を、一人4投程度行う。 ①はじめは、助走をせずに地面に向かって投げる練習を行い、ターボジャブを投げる感覚を知る。 ②次に一歩だけ助走して真っ直ぐ投げる練習を行う。  5 試しの測定 ①メジャーを読む人 ②ジャベリックを拾う人 ③投げる人 ④記録用紙に記入する人 にわかれて計測する。一人2回計測。 ○線を踏み越えたとき、ジャベリックスローの穂先以外の部分が先に地面に落ちた時、ジャベリックスローがサイドラインより外側に落ちた時はファールであることを学ぶ。	○試しの測定に向けてジャベリックスローの持ち手の位置、投げるポイント、測定方法やルールを説明する。  ○ターボジャブが正しく持っていないと真っ直ぐ投げられないことを伝える。  ○ファールになっても、今日は、試しの測定なので記録を残すようにする。  ○数字を読み上げる時は、記録する人に聞こえるようにすることを指示する。
まとめ 10分	6 整理運動・片づけ 7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○体調確認をする。 8 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に、活動場所の用具を片付けさせる。 ○ジャベリックスローの感想を聞く。 ○次回は視聴覚室で技能のポイント確認、グループ活動を行うことを伝える。

**(9) 9/14 時間の展開**

ア 本時のねらい

<技能②>クロスステップからターボジャブ穂先の向きを意識して投げることができる。  
(評価 13/14 時間)

<学びに向かう力、人間性等③>

一人一人、目標や課題に違いがあることに気づき、相手の目標や課題に応じたアドバイスがあること。(評価 12/14 時間)

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 5分	1 集合・挨拶・出席確認（視聴覚教室） 2 本時の説明	○走り幅跳びの振り返り、ジャベリックスローのポイント確認、グループ活動を行うことを説明する。
なか 35分	3 走り幅跳びの振り返り ○記録会の結果を聞く。  4 ジャベリックスローのポイント確認<技能②> ○やり投げ、ジャベリックスローの映像を見る。 ○フォームのポイントが示されている写真を見てポイントを学ぶ。 ①ターボジャブの向きが後ろに引いた時からリリースの時まで投げる方向に向いていること。 ②肩が投げる方向に対して真っ直ぐ向いていること。  5 グループ活動<学びに向かう力、人間性等③> ○ジャベリックスローを行う時の役割を決め、役割内容も確認して役割表に記入する。 ○ペア（専属コーチ）を決める。 ○走り幅跳びでの活動を踏まえアドバイスの約束（・どういった声かけが良かったか・アドバイスの約束・アドバイスを受ける側のルール）を話し合わせて表に記入させる。 ○試しの記録を記入し、個人の目標とチームの目標を計算し記入する。	○映像を流しながら、助走をしっかりとっていること、投げ出しの角度がななめ上になっていることを説明する。  ○ターボジャブと体の向きが大切だと伝える。  ○役割内容は、前回まで行っていたことに一つ以上追加するように指示する。 ○話し合いがうまく進んでいないグループには、適宜助言をする。
まとめ 10分	6 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○体調確認をする。 7 次回の確認・挨拶	○アドバイスの約束を2、3グループ紹介する。

**(10) 10/14 時間の展開**

ア 本時のねらい

＜思考・判断・表現②＞ 仲間の目標や課題を踏まえた活動の選択や助言の仕方を見つけている。(評価 10/14 時間)

イ 本時の評価

《思考・判断・表現②》 仲間の目標や課題を踏まえた活動の選択や助言の仕方を見つけている。【観察】【学習カード】

ウ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ (グループごと)	○本時の流れがわかるように提示する。 ○前回立てた目標値 (step1) をペア (専属コーチ) で確認させる。
なか 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習内容】                &lt;技能②&gt; ターボジャブを後方に引いた姿勢でステップを行い投げの動作に移すこと。</p> </div>	
	4 グループ別練習・計測 <技能②> <思考・判断・表現②>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問】                ターボジャブを真っ直ぐ投げるために意識することは？</p> </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される答え】                正しく持つ      真っ直ぐ引く      体の向き</p> </div>	
	○役割に応じて準備する。  専属コーチと課題練習① ○各活動場所で、練習と補助の順番を決める。 ○フォームチェックシートを使いながら練習と計測を行う。 ○ターボジャブを後ろに引いた時の穂先の向きが真っ直ぐ向いている時は、真っ直ぐ投げられることを知る。	○全体で活動場所、安全上の注意、今日の技能のポイント (ターボジャブを後方に引いた時の穂先の向きはまっすぐ前)、フォームチェックカードの使い方を説明する。 ○グループリーダーを呼び、活動内容を説明しグループ員に伝えさせる。 ○用具係を呼び、必要な道具を準備するように指示を出す。  《思考・判断・表現②》 【観察】 【学習カード】 ○必要があればフォームチェックを行っているペアに助言する。
まとめ 10分	5 整理運動・片づけ 6 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○次回の目標 (step2) を考える。 ○体調確認をする。 7 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に、活動場所の用具を片付けさせる。 ○今日学んだこと、記録を各グループで振り返る。 ○学習カードに記入する。 ○step1の目標を達成した人がいるか聞く。 ○協力して活動できていたグループを紹介する。 ○学習カードを各グループ提出して解散させる。

(11) 11/14 時間の展開

展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 グループ活動（目標の確認） 4 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ（グループごと）	○本時の流れがわかるように提示する。 ○前回立てた目標値（step2）と今日のチーム合計目標をグループごとに確認させる。
なか 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習内容】&lt;技能②&gt; ターボジャブを耳横の位置に保持したまま助走し、助走で得た勢いをジャベリックに伝えて投げること。</p> </div>	
	5 グループ別練習・計測<技能②>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【発問】 ターボジャブを後方に引くのはいつでしょうか？</p> </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される答え】 投げる直前      助走の勢いがついたら</p> </div>	
	○役割に応じて準備する。  専属コーチと課題練習① ○各活動場所で、練習と補助の順番を決める。投げる側はピブスを着用する。 ○フォームチェックシートを使いながら練習と計測を行う。 ○助走時にターボジャブを耳横に保持することでしっかり助走をできることを知る。 ○クロスステップの開始時にターボジャブを後方に引くことで助走の勢いを伝えて投げられることを知る。	○全体で活動場所、安全上の注意を確認した後、今日の技能のポイントを、見本を示しながら説明する。 ・ターボジャブの耳横保持 ・ターボジャブを引くタイミングはクロスステップをした時  ○グループリーダーを呼び、活動内容を説明しグループ員に伝えさせる。 ○用具係を呼び、必要な道具を準備するように指示を出す。 ○安全係を呼び、各活動場所で2人同時に投げないこと、投げる側と計測側で声を掛け合って行うことを伝える。  ○必要があればフォームチェックを行っているペア（専属コーチ）に助言する。
まとめ 10分	6 整理運動・片づけ 7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○次回の目標（step3）を考える。 ○体調確認をする。 8 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に、活動場所の用具を片付けさせる。 ○今日学んだこと、記録を各グループで振り返る。 ○学習カードに記入する。 ○ペアの目標が達成できたかどうか聞く。 ○協力して活動できていたグループを紹介する。 ○学習カードを各グループ提出して解散させる。

(12) 12/14 時間の展開

ア 本時の評価

《主体的に取り組む態度》

①相手の課題に応じた、アドバイスの仕方やアドバイスの受け方があること。

【観察】【学習カード】

③一人一人、目標や課題に違いがあることに気付き、相手の目標や課題に応じたアドバイスの仕方があること。【観察】【学習カード】

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 グループ活動（目標値の確認） 4 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ（グループごと）	○本時の流れがわかるように提示する。 ○前回立てた目標値（step3）とペア（専属コーチ）に見てほしい所（自分の課題）を学習カードに記入させる。 《主体的に取り組む態度③》【観察】【学習カード】 ○チーム目標をグループごとに確認する。
なか 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                         【学習内容】＜技能②＞                          ターボジャブを耳横の位置に保持したまま助走し、助走で得た勢いをターボジャブに伝えて投げること。                     </div> 5 グループ別練習・計測＜技能②＞ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                         【発問】                          ターボジャブを遠くに投げるために適した角度は？                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                         【予想される答え】                          45°      60°      30°                     </div> ○役割に応じて準備する。  専属コーチと課題練習② ○各活動場所で、練習と補助の順番を決める。投げる側はピブスを着用する。 ○フォームチェックシートを使いながら練習と計測を行う。 ○投げる時のジャベリックの飛び出す角度が30°だとより遠くに投げられることを知る。	○全体で活動場所、安全上の注意を確認した後、今日の技能のポイントを見本を示しフォームチェックカードの使い方も合わせて説明する。 ・ターボジャブを投げる時の角度  ○グループリーダーに、活動内容を説明しグループ員に伝えさせる。 ○用具係に、必要な道具を準備するように指示を出す。 ○安全係に、各活動場所で2人同時に投げないこと、投げる側と計測側で声を掛け合って行うことを伝える。  《主体的に取り組む態度①》【観察】【学習カード】 ○自分の課題をしっかりとペア（専属コーチ）に伝えるように指示を出す。また、ペア（専属コーチ）は、それに対してアドバイスをするように伝える。 ○必要があればフォームチェックを行っているペアに助言する。
まとめ 10分	6 整理運動・片づけ 7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○次回の目標（step4）を考える。 ○体調確認をする。 8 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に、活動場所の用具を片付けさせる。 ○今日学んだこと、記録を各グループで振り返る。 ○学習カードに記入する。 ○ペアの目標が達成できたかどうか聞く。 ○協力して活動できていたグループを紹介する。 ○学習カードを各グループ提出して解散させる。

(13) 13/14 時間の展開

ア 本時の評価

《技能②》クロスステップからターボジャンプの穂先の向きを意識して投げることができる。

【観察】【記録】

《主体的に取り組む態度②》

課題解決に向けて話し合う場面で合意形成に貢献しようとする。【観察】【学習カード】

イ 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 集合・整列・挨拶・出席確認 2 本時の説明 3 グループ活動（目標値の訂正・確認） 今までの記録を元に、目標を必要があればグループで話し合い訂正・確認する。 4 準備運動 ○ランニング ○ストレッチ（グループごと）	○本時の流れがわかるように提示する。 ○前回立てた目標値（step4）とペア（専属コーチ）に見てほしい所（自分の課題）を学習カードに記入させる。 ○グループで話し合いを行い目標の修正・確認を行わせる。 《主体的に取り組む態度②》【観察】【学習カード】
なか 30分	【学習内容】＜技能②＞ ターボジャンプを耳横の位置に保持したまま助走し、助走で得た勢いをジャベリックに伝えて投げる。	
	5 グループ別練習・計測＜技能②＞	
	【発問】 ベスト記録を出すためにもっとも意識することは？	
	【予想される答え】 角度 助走 ターボジャンプの向き	
	○役割に応じて準備する。  専属コーチと課題練習③ ○各活動場所で、練習と補助の順番を決める。投げる側はピブスを着用する。 ○フォームチェックシートを使いながら練習と計測を行う。 ○助走の距離（歩数）が安定してくると、ファールが少なくなり安定して投げられるようになることを知る。	《技能②》【観察】【記録】 ○全体で活動場所、安全上の注意を伝える。 ○助走を何歩で行っているか、人によって適した距離があることを伝えて助走を意識させる。 ○グループリーダーに、活動内容を説明しグループ員に伝えさせる。 ○用具係を呼び、必要な道具を準備するように指示を出す。 ○安全係を呼び、各活動場所で2人同時に投げないこと、投げる側と計測側で声を掛け合って行うことを伝える。 ○自分の課題をしっかりとペア（専属コーチ）に伝えるように指示を出す。また、ペア（専属コーチ）は、それに対してアドバイスをするように伝える。 ○必要があればフォームチェックを行っているペアに助言する。
まとめ 10分	6 整理運動・片づけ 7 本時のまとめ ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードの記入をする。 ○グループの目標に対してどうだったか確認する。 ○体調確認をする。 8 次回の確認・挨拶	○用具係を中心に、活動場所の用具を片付けさせる。 ○今日学んだこと、記録を各グループで振り返る。 ○カードに記入する。 ○グループの目標が達成できたかどうか聞く。 ○協力して活動できていたグループを紹介する。 ○次回は視聴覚室で振り返りを行うことを確認し解散させる。

(14) 14/14 時間の展開

展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 5分	1 集合・挨拶・出席確認（視聴覚教室） 2 本時の説明	○本時はターボジャンプの振り返りと陸上競技全体の振り返りを行うことを伝える。
なか 35分	3 グループ活動 ○個人記録とグループ記録の振り返りを行い、学習カードに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・試しの記録との比較</li> <li>・ベスト記録と目標値の比較</li> <li>・目標達成度</li> <li>・目標達成率</li> <li>・一人当たりの平均距離</li> </ul> 4 記録結果発表 ○計算した記録がどうだったのか発表を聞く。  5 解散セレモニー ○陸上競技の授業を行ってみて感じたことを話し合う。 ○話し合った内容をまとめてグループリーダーが発表する。	○机間指導を行い、記録の計算が正しくできているか確認し、必要があれば助言する。  ○項目ごとに上位3グループを発表する。
まとめ 10分	6 本時のまとめ ○陸上競技の授業全体の学習を振り返る。 7 挨拶	○陸上競技の授業全体に対しての振り返りを行う。特に良かったところを伝える。



### 3 授業づくりのポイント

「学びに向かう力、人間性等」を涵養する授業とはどのようなものなのかという問いから本研究は始まった。この2年間の中で、その内容や評価について少しずつ具体が示されてきた。

しかしながら、学校現場ではいまだに、新しい指導と評価に対する不安を感じている。その多くは、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容の理解が進んでいないことが原因だと考え、授業づくりの一助となることを目的とし、「学びに向かう力、人間性等」を涵養する授業づくりのポイントを整理した。ポイントは次のとおりである。

#### (1) 指導の内容に関するポイント

- ・「学びに向かう力、人間性等」は「態度」の内容を引き継いでいる。
- ・体育における「学びに向かう力、人間性等」では指導内容と例示が示されている。
- ・体育における「学びに向かう力、人間性等」の指導内容と例示に伴った評価が必要である。
- ・「例示」から評価規準、具体的な指導内容及び学習活動を設定する。(参考例はp 29 表 19 に記載)

#### (2) 評価に関するポイント

- ・体育における「主体的に学習に取り組む態度」の評価は他教科と異なる。
- ・学習指導要領の指導内容に則した評価を行う。

#### (3) 「学びに向かう力、人間性等」の指導事項と具体的な指導内容の整理

本研究を始めた2年間で「学びに向かう力、人間性等」の内容や評価については文部科学省などから少しずつ具体が示されてきたが、学校現場ではいまだに、指導と評価に対する不安を感じている。その多くは、指導内容の理解が進んでいないことが原因だと考える。

「学びに向かう力、人間性等」においては、現行の技能や思考、判断と同様に例示を基に、評価規準と指導内容及び学習活動を設定することとなる。**表 19 (p. 64)** は本研究で指導した「協力」「参画」「共生」「責任」(責任については、本研究では評価の対象には入れていない) の評価規準と具体的な指導内容、対応した学習活動をまとめたものである。これを参考に、各学校において、生徒の実態に応じた「学びに向かう力、人間性等」を涵養する授業づくりを実践してもらいたい。

表 19 各指導事項における本研究の評価規準及び具体的な指導内容と学習活動

指導事項	協力	参画	共生	責任
例示	互いに助け合い高め合おうとする	合意形成に貢献しようとする	一人一人の違いを大切にしようとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする
評価規準	仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い、高め合おうとしている	課題解決に向けて話し合う場面で、合意形成に貢献しようとする	一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること
具体的な指導内容	相手の課題に応じた、アドバイスの仕方やアドバイスの受け方があること	グループ内の話し合いの場面で、合意形成のために相手の話を聞いたり、自分の意見を言うことが重要であること	一人一人、目標や課題の違いがあることに気づき、相手の目標や課題に応じたアドバイスがあること	グループには必要な役割があり、その役割を自分で見つけて、担うことが必要なこと
対応した学習活動	アドバイスの仕方学ぶ 専属コーチ制度	グループの話し合いで学習活動を決定 話し合いで個人の目標値を設定	アドバイスの仕方学ぶ 記録会のマナー 専属コーチ制度	単元を通した役割分担

※例示については、主な表記の内容

#### 4 研究のまとめ

「学びに向かう力、人間性等」において、指導内容、例示が示されているのは、体育のみである。このことは体育における「学びに向かう力、人間性等」の涵養に他教科とは異なる期待があることが考えられる。また、例示が示されたことにより、「目標に準拠した評価」を実質化すべく、指導と評価の一体化をさらに進めていくことが重要である。現行の学習指導要領では「技能」及び「思考、判断」で例示が示されており、「学びに向かう力、人間性等」でも、「技能」や「思考、判断」と同様に指導と評価を行うことになる。新学習指導要領では育成すべき資質能力をバランスよく育むことが求められている。体育の「学びに向かう力、人間性等」に対する期待を受け、本研究における指導内容の整理を参考に様々な実践が行われることを期待する。

#### 【謝辞】

本研究に際し、大変お忙しい中、検証授業に多くの協力をいただきました湘南台高等学校の校長先生、そして授業を担当していただいた先生を含めた保健体育科をはじめとする教職員の皆様に深く感謝申し上げます。そして、研究の趣旨にご理解いただいた対象生徒の保護者の皆様、検証授業において、一生懸命取り組んでくださいました生徒の皆様に感謝申し上げます。

最後になりましたが、終始御指導、御高閲を賜りました日本体育大学教授の岡出美則様に深く感謝いたします。

#### 【参考・引用文献】

- 1) 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』2016年12月 pp.28-30
- 2) 前掲書 p.61
- 3) 文部科学省「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」2019年1月 p.4
- 4) 前掲書 1) p.186
- 5) 国立教育政策研究所 平成24・25年度小学校学習指導要領実施状況調査 結果のポイント p.35
- 6) 国立教育政策研究所 平成25年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点（中学校 保健体育(体育分野)） p.9、p.11
- 7) 国立教育政策研究所 平成27年度学習指導要領実施状況調査 教科・科目等別分析と改善点（高等学校 保健体育科 体育） p.14
- 8) (独) 国立特殊教育総合研究所（研究代表者 涌井恵） 「協同学習による学習障害児支援プログラムの開発に関する研究」 2006年 pp1-7
- 9) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編・体育編』東山書房、2018年 p.40
- 10) 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成24・25年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果を見るに当たって p.1
- 11) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成20年告示）解説体育編』東洋館出版社、2008年 p.60
- 12) 国立教育政策研究所 平成25年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点（小学校 体育(運動領域)） pp.17-18
- 13) 国立教育政策研究所 平成25年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点（中学校 保健体育(体育分野)） p.2
- 14) 国立教育政策研究所 平成25年度中学校学習指導要領実施状況調査 教師質問紙調査集計結果 pp.10-14
- 15) 国立教育政策研究所 平成25年度中学校学習指導要領実施状況調査 生徒質問紙調査集計結果 pp.17-21
- 16) 前掲書 13) p.13
- 17) 国立教育政策研究所 平成27年度学習指導要領実施状況調査 教科・科目等別分析と改善点（高等学校 保健体育科 体育） p.13
- 18) 国立教育政策研究所 平成27年度高等学校学習指導要領実施状況調査 教師質問紙調査集計結果 pp.3-4
- 19) 国立教育政策研究所 平成27年度高等学校学習指導要領実施状況調査 生徒質問紙調査集計結果 pp.8-10
- 20) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編・体育編』東山書房、2018年 pp.29-32
- 21) (独) 教職員支援機構 中学校学習指導要領 保健体育科の改定のポイント
- 22) 前掲書 pp.90-91
- 23) 前掲書 p.9
- 24) 栗田昇平 協同学習モデルの体育授業への適用過程とその成果 体育科教育学研究 31(2):49-55. 2015 pp.50-54
- 25) 国立教育政策研究所 平成27年度高等学校学習指導要領実施状況調査の結果を見るに当たって p.11